

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	学部の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホクジン イテイカダガク 学校法人 岩手医科大学									
フリガナ大学の名称	イテイカダガク 岩手医科大学 (Iwate Medical University)									
大学本部の位置	岩手県紫波郡矢巾町西徳田2-1-1									
大学の目的	<p>本学の目的は、医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成するにある。すなわち、まず人としての教養を高め、十分な知識と技術とを修得させ、更に進んでは専門の学理を究め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献させること、これが本学の使命とする所である。</p>									
新設学部等の目的	<p>医学部・歯学部・薬学部との密接な連携のもと、総合的にバランスの取れた看護学教育を展開することにより、専門家としての知識・技能・態度を修得する。すなわち、人々の尊厳と権利を尊重し、最新の高度医療に対応する実践能力を持つとともに、医療チームの一員として自律的に責務を遂行できる看護専門職として、地域社会に貢献する人材の養成を目指すものである。</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	看護学部 [school of nursing] 看護学科 [department of nursing] 計	年 4	人 90	年次人 3年次 5	人 370	学士(看護学)	年月 第年次 平成29年4月 第1年次 平成31年4月 第3年次	岩手県紫波郡矢巾町 西徳田2-1-1		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	岩手看護短期大学 看護学科(廃止) (△60) ※平成29年4月学生募集停止									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	看護学部 看護学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
		教授	准教授	講師	助教	計	助手			
	新設	人	人	人	人	人	人	人	人	
	看護学部 看護学科	7 (7)	3 (2)	10 (5)	11 (4)	31 (18)	5 (2)	109 (57)		
	計	7 (7)	3 (2)	10 (5)	11 (4)	31 (18)	5 (2)	— (—)		
	既設	医学部 医学科	54 (54)	31 (31)	84 (84)	309 (309)	478 (478)	0 (0)	267 (267)	
歯学部 歯学科	18 (18)	11 (11)	17 (17)	63 (63)	109 (109)	0 (0)	269 (269)			
薬学部 薬学科	14 (14)	8 (8)	4 (4)	28 (28)	54 (54)	0 (0)	75 (75)			
教養教育センター	7 (7)	3 (3)	4 (4)	10 (10)	24 (24)	0 (0)	17 (17)			
計	93 (93)	53 (53)	109 (109)	410 (410)	665 (665)	0 (0)	— (—)			
合計	100 (100)	56 (55)	119 (114)	421 (414)	696 (683)	5 (2)	— (—)			

教員以外の職員 の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		243 (243)	144 (144)	387 (387)					
	技 術 職 員		1,726 (1,726)	93 (93)	1,819 (1,819)					
	図 書 館 専 門 職 員		6 (6)	10 (10)	16 (16)					
	そ の 他 の 職 員		63 (63)	90 (90)	153 (153)					
計		2,038 (2,038)	337 (337)	2,375 (2,375)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	399,834.21 m ²	0 m ²	0 m ²	399,834.21 m ²					
	運 動 場 用 地	92,313.78 m ²	0 m ²	0 m ²	92,313.78 m ²					
	小 計	492,147.99 m ²	0 m ²	0 m ²	492,147.99 m ²					
	そ の 他	53,845.45 m ²	0 m ²	0 m ²	53,845.45 m ²					
合 計	545,993.44 m ²	0 m ²	0 m ²	545,993.44 m ²						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		118,532.62 m ² (118,532.62 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	118,532.62 m ² (118,532.62 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	28 室	74 室	33 室	2 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		一部共同部屋				
		看護学部 看護学科		23 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書・雑誌:285,784冊 学術雑誌:12,368種 視聴覚資料:1,489点 電子ジャーナル:4,025種 電子ブック:7,531点 データベース:16種 標本:165点		
	看護学部 看護学科	2,556 [241] (1,256 [101])	105 [14] (105 [14])	73 [13] (73 [13])	54 (14)	5,128 (3,213)	15 (8)			
	計	2,556 [241] (1,256 [101])	105 [14] (105 [14])	73 [13] (73 [13])	54 (14)	5,128 (3,213)	15 (8)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		5,112.38 m ²	457		277,972					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		5,513.56 m ²	野球場2面、サッカー・ラグビー場2面、テニスコート12面							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・データベース の整備費(運用コスト 含む)を含む。	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等		282千円	282千円	282千円	282千円	－千円		－千円
		共同研究費等		10,848千円	10,848千円	10,848千円	10,848千円	－千円		－千円
		図書購入費	13,894千円	11,127千円	12,028千円	13,019千円	14,109千円	－千円		－千円
		設備購入費	123,833千円	67,715千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円		－千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
1,650千円		1,400千円	1,400千円	1,400千円	－千円	－千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			寄付金、研究助成金および補助金、雑収入 等							

既設大学等の状況	大学の名称	岩手医科大学							募集定員57名（定員超過率0.91倍）	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
		年	人	年次人	人		倍			
	医学部 医学科	6	123	3年次 7	770	学士（医学）	0.98	昭和23年		岩手県盛岡市内丸19-1
	歯学部 歯学科	6	73	—	442	学士（歯学）	0.70	昭和40年		岩手県盛岡市中央通1-3-27
	薬学部 薬学科	6	160	—	960	学士（薬学）	1.01	平成19年		岩手県紫波郡矢巾町西徳田2-1-1
	医学研究科 生理系専攻	4	6	—	24	博士（医学）	0.28	昭和35年		岩手県盛岡市内丸19-1
	医学研究科 病理系専攻	4	3	—	12	博士（医学）	0.41	昭和35年		岩手県盛岡市内丸19-1
	医学研究科 社会医学系専攻	4	2	—	8	博士（医学）	4.37	昭和35年		岩手県盛岡市内丸19-1
	医学研究科 内科系専攻	4	20	—	80	博士（医学）	0.66	昭和35年		岩手県盛岡市内丸19-1
	医学研究科 外科系専攻	4	19	—	76	博士（医学）	0.54	昭和35年		岩手県盛岡市内丸19-1
	医学研究科 医科学専攻	2	10	—	20	修士（医科学）	0.25	平成16年		岩手県盛岡市内丸19-1
	歯学研究科 歯学専攻	4	18	—	72	博士（歯学）	0.44	昭和58年		岩手県盛岡市中央通1-3-27
	薬学研究科 医療薬学専攻	4	3	—	12	博士（薬学）	1.16	平成25年		岩手県紫波郡矢巾町西徳田2-1-1
薬学研究科 薬科学専攻	2	3	—	6	修士（薬科学）	0.00	平成25年	岩手県紫波郡矢巾町西徳田2-1-1		
大学の名称	岩手看護短期大学									
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地	
	年	人	年次人	人		倍				
看護学科	3	60	—	180	短期大学士（看護学）	1.13	平成2年	岩手県滝沢市大釜千が窪14番地1		
附属施設の概要	<p>施設名称・目的・規模等</p> <p>名称：岩手医科大学附属病院 （歯科医療センター） （循環器医療センター） 目的：医学歯学の教育・実習・研究のため 規模等：土地 204,356.91㎡、建物 70,396.22㎡</p> <p>名称：岩手医科大学附属花巻温泉病院 目的：医学の教育・実習・研究のため 規模等：土地 12,994.08㎡、建物 5,942.08㎡</p> <p>名称：岩手医科大学附属PET・リニアック先端医療センター 目的：医学の教育・実習・研究のため 規模等：土地 1,149.01㎡、建物 2,184.40㎡</p> <p>名称：岩手医科大学附属薬用植物園 目的：薬学の教育・研究のため 規模等：面積 671.30㎡</p>							所在地	設置年	

学校法人岩手医科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成 28 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成 29 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
岩手医科大学				岩手医科大学				
医学部		3年次		医学部		3年次		
医学科	123	7	770	医学科	123	7	<u>768</u>	※下記参照
歯学部				歯学部				
歯学科	73	—	442	歯学科	73	—	<u>440</u>	※下記参照
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	160	—	960	薬学科(6年制)	160	—	960	
				看護学部		3年次		
				看護学科	<u>90</u>	<u>5</u>	<u>370</u>	学部の設置 (認可申請)
		3年次				3年次		
計	356	7	2172	計	<u>446</u>	<u>12</u>	<u>2538</u>	
岩手看護短期大学				岩手看護短期大学				
看護学科(3年制)	60	—	180		<u>0</u>	—	<u>0</u>	平成 29 年 4 月 学生募集停止
計	60	—	180	計	<u>0</u>	—	<u>0</u>	
岩手医科大学医療専門学校				岩手医科大学医療専門学校				
歯科技工学科	25	—	50	歯科技工学科	25	—	50	
歯科衛生学科	40	—	120	歯科衛生学科	40	—	120	
計	65		170	計	65		170	

※ 医学部医学科の入学定員は、平成 24 年度まで 125 名、平成 25 年度から 123 名（3 年次編入学定員 7 名）。

※ 歯学部歯学科の入学定員は、平成 24 年度まで 75 名、平成 25 年度から 73 名。

教育課程等の概要																
(看護学部看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
関連科目 I P E	多職種連携のためのアカデミックリテラシー	1通	2					○						兼20	共同	
	チーム医療リテラシー	3前	1					○		3				兼15	共同	
	4学部合同セミナー	4前	1					○		7	1			兼21	共同	
	小計（3科目）	—	4	0	0			—		7	1	0	0	0	兼49	—
教養教育科目群 教養教育科目	医療における社会・行動科学	1前	1					○						兼1		
	基礎自然科学	1前	1					○		1						
	情報科学	1前	2					○						兼1		
	健康運動科学	1前	2					○						兼4	※実技 オムニバス・共同（一部）	
	社会福祉	1前	1					○						兼1		
	心理学	1前	1					○						兼1		
	医療面接の基礎	1後	1					○						兼2	オムニバス・共同（一部）	
	生命倫理学	1後	1					○						兼1		
	English Speaking & Listening	1後	1					○						兼4		
	English Reading & Writing	1通	3					○						兼3		
	医療英語	2前	1					○						兼2		
	ベーシック生物	1前		1				○						兼3	オムニバス	
	スタンダード生物	1前		1				○						兼3	オムニバス	
	アドバンスト生物	1前		1				○						兼9	オムニバス・共同（一部）	
	自然・文化人類学	1前		1				○						兼6	オムニバス・共同（一部）	
	ベーシック化学	1前		1				○						兼1		
	ベーシック物理	1前		1				○						兼3	オムニバス・共同（一部）	
	解析学入門	1前		1				○						兼1		
	医療とスポーツ	1前		1				○						兼5	オムニバス	
	文学の世界	1前		1				○						兼1		
	道徳のしくみ	1前		1				○						兼1		
	ベーシック数学	1前		1				○						兼2		
	アドバンスト化学	1前		1				○						兼1		
	医療とコミュニケーション	1前		1				○						兼4	オムニバス・共同（一部）	
	実践英語	1前		1				○						兼1		
	医療と福祉	1前		1				○		1	1	1		兼9	オムニバス	
	科学英語	1後		1				○						兼1		
	英語学	1後		1				○						兼1		
	医療と物語	1後		1				○						兼5	オムニバス・共同（一部）	
	人間関係論	1後		1				○						兼2	オムニバス	
パーソナリティ心理学	1後		1				○						兼1			
哲学の世界	1後		1				○						兼1			
医療と法律	1後		1				○						兼1			
	小計（33科目）	—	15	22	0			—		1	2	1	0	0	兼50	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
看護専門基礎科目	栄養学	1後	1			○			1									
	生化学	1後	2			○				1								
	感染免疫学	1後	2			○					1							
	基礎解剖学	1通	2			○									兼1			
	基礎生理学	1通	2			○									兼1			
	病理学概論	1後	1			○									兼1			
	薬理学	2前	2			○				1	1					オムニバス		
	臨床心理学	2前	1			○									兼1			
	疾病論Ⅰ	2前	2			○			1									
	疾病論Ⅱ	2前	2			○									兼8	オムニバス		
	疾病論Ⅲ	2後	2			○									兼9	オムニバス		
	疾病論Ⅳ	2後	2			○									兼5	オムニバス		
	医学・医療入門	1前	1			○			2	1	1				兼3	オムニバス		
	公衆衛生学・疫学	3前	2			○									兼1			
	保健統計学	3前	2			○									兼1			
	小計（15科目）		—	26	0	0	—			2	2	2	0	0	兼30	—		
専門科目群	基礎看護学	看護学概論	1前	2			○			3	2						オムニバス	
		看護倫理学	3前	1			○			1		1					オムニバス	
		基礎看護学Ⅰ	1前	1				○		1		1	5				※講義 オムニバス・共同（一部）	
		基礎看護学Ⅱ	1後	1				○		1		1	5				※講義 オムニバス・共同（一部）	
		基礎看護学Ⅲ	1後	1				○				1	5				※講義 オムニバス・共同（一部）	
		基礎看護学Ⅳ	1後	2				○		1								
		基礎看護学Ⅴ	2前	2				○		1		1	5				※講義 オムニバス・共同（一部）	
	成人看護学	成人看護学概論	2前	1			○				1	1						オムニバス
		成人看護方法論Ⅰ	2前	2			○					1	1					オムニバス
		成人看護方法論Ⅱ	2前	2			○				1							
		成人看護学演習Ⅰ	2前	1				○				1	2	1				※講義 オムニバス・共同（一部）
		成人看護学演習Ⅱ	3前	1				○			1		2	1				共同
	老年看護学	老年看護学概論	2前	1			○				1							
		老年看護方法論	2後	2			○				1							
		老年看護学演習	3前	1				○			1		1	1				共同
	小児看護学	小児看護学概論	2前	1			○			1								
		小児看護方法論	2後	2			○			1		1						オムニバス
		小児看護学演習	3前	1				○		1		1		1				共同
	母性看護学	母性看護学概論	2前	1			○			1								
		母性看護方法論	2後	2			○			1		2						オムニバス
		母性看護学演習	3前	1				○		1		2	1	1				※講義 オムニバス・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
公衆衛生看護学関連科目群	保健医療福祉行政論	3前		1		○			1							
	公衆衛生看護方法論	3後		2			○		1		3	2	1	兼2	※講義 オムニバス・共同(一部)・集中	
	公衆衛生看護展開論	3後		2			○		1		2	2	1	兼1	※講義 オムニバス・共同(一部)・集中	
	公衆衛生看護管理論Ⅰ	4前		2			○		1		2	2	1		共同	
	公衆衛生看護管理論Ⅱ	4前		1		○			1							
	公衆衛生看護学実習	4後		3				○	1		2	2	1		共同	
	日本国憲法	2後		2			○							兼1		
小計(7科目)		—	0	13	0		—	1	0	3	2	1	兼4	—		
助産看護学関連科目群	助産学概論	3前		2		○			1							
	助産診断技術学Ⅰ	3後		1		○			1		1				オムニバス・集中	
	助産診断技術学Ⅱ	3後		2		○			1		1				オムニバス・集中	
	助産診断技術学Ⅲ	3後		1		○			1		2				オムニバス・集中	
	助産診断技術学Ⅳ	4前		2			○		1		2	1	1		※講義 オムニバス・共同(一部)	
	助産診断技術学Ⅴ	4後		2		○			1		2				オムニバス	
	地域母子保健	4後		1		○			1		2				オムニバス	
	助産管理学	4後		1		○			1							
	助産学実習Ⅰ	4後		2				○	1		2	1			共同	
	助産学実習Ⅱ	4後		8				○	1		2	1	1		共同	
小計(10科目)		—	0	22	0		—	1	0	2	1	1	0	—		
科自由	看護研究実践演習	4後			1		○		7	2	9				共同	
	小計(1科目)		—	0	0	1		—	7	2	9	0	0	0	—	
合計(124科目)			—	118	63	1		—	7	3	10	11	5	兼109	—	
学位又は称号		学士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)								
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
「教養教育科目群」から23単位(必修19単位、選択4単位)、「専門科目群」から101単位以上(必修99単位、選択2単位以上)、合計124単位以上を取得すること。 保健師国家試験受験資格取得のためには、「公衆衛生看護学関連科目群」の全科目を履修し、卒業要件単位と合わせて137単位以上を取得すること。 助産師国家試験受験資格取得のためには、「助産看護学関連科目群」の全科目を履修し、卒業要件単位と合わせて146単位以上を取得すること。 (履修科目の登録の上限:45単位(年間))						1学年の学期区分			2期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目群 IPE関連科目	多職種連携のためのアカデミックリテラシー	医療技術の複雑化に対応するために、また超高齢化に伴う全人的医療ケア提供のために、近年、専門職間の連携の重要性が増している。そして、こうした連携を実現するために、二種類以上の専門職が共に学び合う多職種（専門職）連携教育（Interprofessional Education:IPE）が広がりを見せている。本科目は、全学部の学生が混在する少人数グループを単位とし、クリティカルシンキング・ロジカルライティングの修得、図書館演習および医療をテーマとしたワークショップ活動を行うことで、IPEに必要なアカデミックリテラシー（大学で学ぶための諸能力）を学ぶ。	共同
	チーム医療リテラシー	患者中心の医療を実現するために、これまでの教養教育・専門教育で得た知識と経験を生かし、患者の疾病段階に応じたサポート体制がどのような職種によるチームによって形成されるのかを、講義と全学部の学生によるアクティブラーニングを通じて学修する。また、立場の異なるメンバーが集まったグループにおいて一つの判断や結論を出すワークを行うことで、他者の意見を傾聴し、他者の価値観に配慮した上で自己の意見を主張するスキルを学修し、チーム医療に必要なコミュニケーションの在り方や方法を理解する。	共同
	4学部合同セミナー	多職種（専門職）連携教育（Interprofessional Education:IPE）の一環として、医歯薬学部5学年、看護学部3学年までに修得した医学・歯学・薬学・看護学の専門知識と経験を基に、全学部の学生が症例をPBL形式で検討する。各症例の診断、病態生理および治療を各学部生で事前に検討し、セミナー当日に学部間で意見交換を行い、それぞれの専門職がどのような観点から病に対してのいるかを知ることで、病者に対する多角的な見方を学ぶ。	共同
	医療における社会・行動科学	本科目では、医療の現場で用いられている行動科学の理論とモデルについて概説する。医学的な知識に加えて行動科学の基礎理論を学び、人間の行動を科学的に捉える基礎知識を会得することは、医療現場において患者の課題についてロジックを立てて理解し、効果的にサポートすることに役立つ。また、医師、歯科医師、薬剤師および看護師が共通の行動科学理論を理解することは、チーム医療を効果的に実施する上で極めて重要である。行動科学モデルを種々の場面で応用するための基礎を修得する。	
	基礎自然科学	生命を分子レベルで捉え、物理や化学の法則に基づいて生命が営まれていることを理解し、各々の生命現象について学ぶ。ヒトは約60兆個の細胞でできており、その細胞内で起こる化学反応による生体物質の合成やエネルギーの産生および消費について学ぶ。体内の環境を維持するための仕組みや調節機構について学び、その破綻が疾病につながることを理解する。また、放射線の性質やヒトへの影響などについて正しく理解し、放射性物質による健康障害の危険性について多角的に学ぶ。	
	情報科学	“読み書き算盤”という学びの基本を示した古くからの言葉があるが、その本質は色褪せることがない。複雑な現代社会の中で病める人々と向き合わなくてはならないこれからの医療人にはさらに“聴く・話す”能力も求められる。コンピュータと関連機器は、これらの学びの基本の習得および実践活用を強力にアシストする現代の神器である。しかし、ボタンを1個押せばあとは御任せというわけにはいかない。本科目は、習得訓練によってコンピュータと関連機器を勉学・研究生活の強力無比なアシスタントとして、倫理観をもって操る能力を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目群 教養教育科目	健康運動科学	現代は急激な高齢社会の到来や慢性的な運動不足と栄養過多による半健康人の増加など、生活の質（QOL）の向上や健康寿命の延伸が大きな課題となっている。こうした現状を背景に、文化としてのスポーツおよび運動が身体や心および社会生活に及ぼす影響を明らかにするとともに、スポーツおよび運動の本質や意義、健康との関わりを探り、スポーツ医・科学的な諸問題を考察および実践できる医療人としての資質を学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （88 小山 薫／8回） 生活の質（QOL）と健康観、健康づくり施策と健康指標、運動の仕組みとスポーツ、体力とトレーニング、スポーツと栄養、身体組成と肥満、酸素摂取と血液循環、発育発達と老化、運動処方および体力測定法について学ぶ。 （88 小山 薫・136 高橋 健・137 豊澤 博幸・138 本多 好郎／7回）（共同） 体格測定（身長・体重）、身体組成測定（体脂肪率・除脂肪体重）、血圧測定、トレッドミルによる心拍数の測定（ウォーキング・ジョギング）、エルゴメーターによる脈拍数の測定、体力測定（筋力・敏捷性・柔軟性・平衡性）およびレクリエーション実習について学ぶ。	オムニバス方式・共同（一部） 講義16時間 実技14時間
	社会福祉	人は病気になり医療を受ける際に心理・社会的な影響を大きく受ける。特に入院が必要となった場合には、家族・経済・就労といったさまざまな要因が当事者の生活に影響をあたえる。本科目では、疾病から人が受ける社会的な影響を検討し、福祉というセーフティネットがどのように機能するのかを学ぶ。病気の部分だけに焦点を当てるのではなく、看護を学ぶ上で全人的な視点をもって人に接することを理解する。	
	心理学	心理学は「こころ」の科学的理解を通して人間を探求する学問であり、実験、調査、観察および事例研究等を通じた人間行動解明へのアプローチがなされる。本科目においては、心理学の歴史を学ぶと同時に、基礎と応用の両視野から理解する。そして学習心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学、産業心理学、犯罪心理学および青年心理学の知見をもとに、「こころ」の働きおよび行動への影響を考える。本科目の学修を通じ、独自性と多様性の尊重と、個人と社会の相互作用の理解を身に付ける。	
	医療面接の基礎	医療の担い手の一員として、患者、同僚、多職種（専門職）や地域社会との信頼関係を確立するためには、相手のこころや立場、価値観等の理解と尊重が必要となる。本科目は、医療面接に必要な態度と基本的技法を習得するために、コミュニケーションの基礎、行動科学理論を用いたヘルスコミュニケーションおよび患者の特性に応じた医療面接等について学ぶ。さらに、基本的な理論を学んだ後、学生同士によるロールプレーを行い、理論の理解を深めることによって医療面接を効果的に行う基礎を身に付ける。 （オムニバス方式／全14回） （87 相澤 文恵／2回） ヘルスコミュニケーションの理論と態度分析について学ぶ。 （114 藤澤 美穂／9回） コミュニケーション・カウンセリングの基礎、個人と環境の相互作用、臨床心理アセスメント、臨床心理面接（精神分析、表現療法、集団精神療法、認知行動療法、家族療法、家族心理教育）、クライアントからの質問への応用、トラウマティックストレスの理解とストレスマネジメントについて学ぶ。 （87 相澤 文恵、114 藤澤 美穂／3回）（共同） 受容・共感、ヘルスコミュニケーション理論の応用について学ぶ。	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目群 教養教育科目	生命倫理学	近年における医学の発展はめざましく、病気や障害に悩む多くの人々に福音をもたらした。しかし、延命治療技術の進歩によって安楽死問題が生まれたように、生殖医療、移植医療および遺伝子診断等の先端医療技術は新たな倫理的問題も生み出した。このため、現代の医療人には、医療倫理の課題を深く理解し、広い視野から考察することのできる教養が求められている。本科目では、このような状況を背景として、医療に関わる倫理的問題に対応していくための基礎力を身に付ける。	
	English Speaking & Listening	グローバル化が進む中、日本国内外において、日本の看護師には外国人患者および外国の医療従事者とコミュニケーションをとるための英会話能力がますます必要となっている。English Speaking & Listening (ESL) では、ビデオ教材を中心に、英語を通じて健康および看護に関連するトピックスを学び、学んだ内容についてのスピーチ、ペアワークおよびグループワークに取り組み、英語を「話す・聞く」力の向上を重点的に学ぶ。	
	English Reading & Writing	現在、国際社会の一員として、また、世界で活躍する医療人として、看護師が英語を使用する機会がますます増えている。English Reading & Writing (ERW) では、最新的话题を英語で数多く読むことで、内容理解はもとより、その背景にある文化を広く理解する態度を養う。また、習得した表現を用いて、読み取った情報や自分の考えを英語で表現する訓練を重ねることで、将来、新聞・雑誌の記事や論文を自分で読み、医療現場や国際学会などで情報や自分の意見を英語で発信する技能を学ぶ。	
	医療英語	英語が共通語ともいえる時代の「医療英語」は、患者との会話のみならず、看護専門用語の理解、学術誌などの読解、学術論文などの読み書き、口頭発表、学術集会および国際会議への参加なども含む、幅広い分野である。本科目では、「読む」、「聞く」、「書く」および「話す」の四技能をバランスよく取り入れ、ペアワークやグループワークも含む勉強法を通じて、医療英語の知識だけではなく、グローバル時代で働く看護師に必要な実践的なスキルを身に付ける。	
	ベーシック生物	医療従事者にとって生物学の知識は必須である。本科目は、大学初等生物の入門レベルの基礎知識および考え方を学ぶ全学部共通科目である。生物学・生命科学の基礎的事項と各学部専門科目で学ぶ内容との関連や連続性に配慮し、医療系大学の学生に必要な不可欠な遺伝子・細胞・個体レベルの生命現象について学び、専門科目への導入を可能とする基礎知識を修得する。 （オムニバス方式／全14回） （68 松政 正俊／4回） 多細胞動物の体（組織、器官、器官系）、生命体を構成している物質、ホメオスタシス（恒常性）および体内における物質代謝について学ぶ。 （107 三枝 聖／2回） 生命の設計図および遺伝子の複製と発現（遺伝、遺伝子の本体・DNAの構造と複製）について学ぶ。 （115 蛭田 千鶴江／8回） 細胞の構造（細胞の構造と機能、細胞周期とその調節）、多細胞動物の体（受精と初期発生）、生命の設計図・遺伝子の複製と発現、遺伝子の発現（転写・翻訳）と発現調節、減数分裂におけるゲノムの分配、遺伝子工学および生体の防御・免疫系と疾患について学ぶ。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目群	教養教育科目	<p>現在、医療従事者にとって生物学の知識は必須となっている。本科目は、基礎生物学的知識および思考を確認・充実させ、専門科目での学びを容易にするための学部共通科目である。生物学・生命科学の基礎的事項と各学部専門科目で学ぶ内容との関連や連続性に配慮し、医療系大学の学生に必要と思われる遺伝子・細胞・個体レベルの生命現象について理解を深め、専門科目の導入部に相当する基礎知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(68 松政 正俊/3回) 細胞の構造と機能、体内における物質代謝およびホメオスタシスについて学ぶ。</p> <p>(107 三枝 聖/9回) 組織・器官・器官系、細胞周期とその調節、受精と初期発生、生体を構成する物質、遺伝、遺伝子の本体と複製、遺伝子の発現と調節および生体防御について学ぶ。</p> <p>(115 蛭田 千鶴江/2回) 減数分裂によるゲノムの分配および遺伝子工学について学ぶ。</p>	オムニバス方式
		<p>医療系の学問分野において生物学の知識は必須であり、常に学修しつづけるモチベーションを維持していくことが肝要である。本科目では、医学・歯科医学・薬学および生物学の専門家が、それぞれの専門分野を中心にして、自然科学系および医療系の大学生に必要と思われる生物学・生命科学の知見・考え方を提示する。このことにより、生物・生命科学の様々な視点、科学的な根拠に基づいた論理的な考え方を知り、課題解決における多分野の専門家・多職種との連携の重要性を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(60 中西 真弓/1回) 生体内酸性環境とがんの転移および骨代謝について学ぶ。</p> <p>(68 松政 正俊/4回) 生物学から見たヒト・人間、動物の社会と性、集団における遺伝学および生物学的な課題の発見と見通しについて学ぶ。</p> <p>(76 奈良場 博昭/1回) 非感染性疾患 (NCDs) の背景にある慢性炎症について学ぶ。</p> <p>(101 帖佐 直幸 /1回) 幹細胞生物学と未来医療について学ぶ。</p> <p>(102 西谷 直之/1回) 分子標的治療薬から見るがんの生物学について学ぶ。</p> <p>(107 三枝 聖/2回) ヒトの起源および遺伝子診断・DNA型鑑定と生物学について学ぶ。</p> <p>(115 蛭田 千鶴江/1回) 性と生殖について学ぶ。</p> <p>(115 蛭田 千鶴江・128 安達 登/1回) (共同) ミトコンドリアDNA多型からみた人類学について学ぶ。</p> <p>(115 蛭田 千鶴江・129 柄内 新/2回) (共同) ヒトはなぜ死ぬのかおよび進化から見た病気について学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目群 教養教育科目	自然・文化人類学	<p>大学初年次には、多様な現象、ものの見方、考え方を知ることが肝要である。人類学は人類に関する総合的な学問領域であり、「ヒト」を自然科学的な視点から考える自然人類学、ならびに「人間」の文化的・社会的側面を考える文化人類学・社会人類学を内包する。これらの各領域に関する知見が同一の科目で扱われることは少ないが、ヒト・人間を対象とする医療系学生が両者について学ぶことは意義あることと思われる。本科目では、自然人類学の諸側面および文化人類学の初歩を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(68 松政 正俊/1回) 人類学および生物学について学ぶ。</p> <p>(43 佐藤 洋一・68 松政 正俊/1回) (共同) 骨から見た人類について学ぶ。</p> <p>(68 松政 正俊・130 松前 もゆる/7回) (共同) 科学と文化人類学、人生と通過儀礼のなかの「生」「老」「病」「死」、人生と通過儀礼、性の区分、医療と文化・社会における「正常」と「異常」の区分および身体をめぐる文化・社会・宗教について学ぶ。</p> <p>(47 出羽 厚二・68 松政 正俊/2回) (共同) DNA多型 (Y染色体DNA多型からみた人類学) および人類と病気 (直立2足歩行がもたらしたもの) について学ぶ。</p> <p>(47 出羽 厚二・115 蛭田 千鶴江/1回) (共同) ミトコンドリアDNA多型からみた人類学について学ぶ。</p> <p>(115 蛭田 千鶴江・129 柄内 新/2回) (共同) ヒトはなぜ死ぬのかおよび進化から見た病気について学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	ベーシック化学	<p>後期に開講される化学系教養科目ならびに2年次以降の看護学における専門科目を修得する上で必須となる化学的知識を確実に身に付けると同時に、化学的なものの見方ができるようになる下地を作るために開講する全学部合同科目である。本科目では、物質の構成粒子 (原子、分子、イオン)、物質の質量、周期律、代表的元素の特徴、化学結合、化学反応、酸と塩基、酸化と還元、無機物質および有機物質などについて理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目群	教養教育科目	<p>近年、学生の理工学系離れが進み、物理学の学力低下は著しい。しかし、医療系の業務には物理学に関連する知識が必要であることは言うまでもない。例えばX線の発見は、人体の透視という医療において革命的な診断法をもたらした。このような医療の進歩は科学技術の発展に依拠しており、これら技術を支える基本原理のほとんどは物理学に基づいている。本科目では、医療に役立つ医学物理の基本概念を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(70 佐藤 英一/9回) 物理量と基本単位、速度と加速度、力と仕事、等速円運動と単振動、力学的エネルギー保存則と摩擦、ボイル、シャルル、ボイル・シャルルの法則、直流回路とオームの法則、抵抗の連結とキルヒホッフの法則および交流回路とインピーダンスについて学ぶ。</p> <p>(116 小田 泰行/1回) コンデンサーの原理、電気量、電気容量および電気エネルギーについて学ぶ。</p> <p>(117 寒河江 康朗/2回) 連続の式とベルヌーイの定理、光子、原子と電子および放射線について学ぶ。</p> <p>(116 小田 泰行・117 寒河江 康朗/2回) (共同) 講義内容の復習。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)
		<p>本科目は、全学部高学年次専門科目、将来の専門研究への接続基礎として開講する講義である。将来必要と推測される数学としては微分方程式、ベクトル解析、複素解析、フーリエ・ラプラス変換などの解析学がある。例えば、微分方程式は力学現象をはじめ薬物動態においても基礎として頻繁に用いられ、CTやMRIの解析ではベクトル解析、複素解析、フーリエ・ラプラス変換は当然のものとして扱われる。本科目で扱う解析学分野は多岐に渡るが、細部に入らず、将来への備えとして基礎知識、概念、思考方法や簡単な計算について修得する。</p>	
		<p>現在、日本人の平均寿命は人生80年時代を迎え、超高齢社会、老老介護時代といわれている。本科目では、医療分野に必要な運動習慣やスポーツ習慣形成の方法、現場における人間関係づくり、スポーツにおける体力づくり（コーディネーショントレーニング、レクリエーション実習含む）など、健康寿命を延ばすためのプログラムについて総合的な角度から、医療とスポーツの関係について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(88 小山 薫/2回) 介護予防のためのリハビリレクリエーションについて学ぶ。</p> <p>(136 高橋 健/3回) 高齢者の運動器の機能および運動プログラムについて学ぶ。</p> <p>(137 豊澤 博幸/3回) スポーツ活動における障害および外傷の予防について学ぶ。</p> <p>(138 本多 好郎/3回) 医療現場におけるチームビルディングについて学ぶ。</p> <p>(139 内城 寛子/3回) 心の健康、ハラスメントおよびジェンダーについて学ぶ。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目群 教養教育科目	文学の世界	時間を超越した美しい文学は、人生のモデルともなり、人々の生きる指標やこころの支えともなる。生と死、愛と憎しみ、病と祈り、不安と恐怖、驚きと喜びなど、文学に表現されたテーマは実にさまざまであり、その表現方法も千差万別である。本科目では、岩手県の文学、とりわけ石川啄木の短歌を取り上げ、その表現方法の深さと豊かさを理解し、生涯の宝となりうる文学的教養の世界への扉を開く。生きるとは自分の人生の歌を歌うことであり、他者を理解することは、他者の人生の歌に耳を傾けることである。歌ことばの理解を通して、医療人に必要な病者の歌を聴き想像力と治療のプロセスを語る創造力を身に付ける。	
	道徳のしくみ	本科目は、功利主義、カント倫理学、社会契約説、徳の倫理および正義論等様々な倫理的立場を取り上げ、これらの理論が倫理的問題の具体例に対してどのような指針を与えることができるかを検討する。また、そうした検討を通じて、受講生に、私たちにとって「よく生きる」こととは何かを考える機会を与える。功利主義、カント倫理学および正義論は、生命倫理学の四基本原則の基盤であり、徳の倫理も生命倫理学の中で重要な位置を占めるようになっている。そのため、講義の「まとめ」では、生命倫理学と諸倫理学説との関係についても修得する。	
	ベーシック数学	数学は、人間の知的活動の論理と直観、解析と総合といった極めて理性的な部分を練磨することにも有効な学問である。医学を含む自然科学分野では関心となる対象や構造を合理的に抽象化・一般化したり、逆に具象化・特殊化したりといった思考を大いに必要とするが、数学はそのような思考活動に対して論理的整合性を保証して自然現象の法則性を解明する有効な手段を提供する。本科目では、多くの基本問題に取り組むことによって基礎知識や思考を深め、数学の活用能力を身に付ける。	
	アドバンスト化学	高校化学を全範囲履修してきた学生を対象とする全学部合同科目である。これまでの化学的知識の簡単な復習を出発点として、大学教養レベルの発展的内容までを化学と生命との関わりに言及しつつ講義する。本科目では、生命と関連の深い化学的知識（原子の構造・分子の成り立ち・分子間相互作用・水溶液の性質など）についての理解を深め、また医療系大学での化学的素養の重要性を学ぶ。	
	医療とコミュニケーション	医療人にとって必要な情報伝達の数々について学ぶ。コミュニケーションのベースとなる「みること」「きくこと」の多様性について知り、障がいを持った人々との情報交換のあり方も含め医療現場で必要なコミュニケーションの種類とその心構えを理解する。情報を集め、それを分類・理解してしっかりと受け止め、そして、正しく発信するための基本的なことがらを学修する。論理的にわかりやすい表現で自分の考えを伝えるための技術を習得する。医療面接の手法を学んでいくための準備として、コーチングという対話の仕方について理解を深める。さらに、脳の情報伝達経路と筋肉反射の関係を体感するためのエクササイズについて学ぶ。 （オムニバス方式／全14回） （67 平林 香織／5回） みることと情報伝達、きくことと情報伝達、日本語による情報伝達、正確な情報伝達および論理的な情報伝達について学ぶ。 （59 駒野 宏人・67 平林 香織／2回）（共同） 脳とからだの情報伝達について学ぶ。 （67 平林 香織・131 平野 順子／4回）（共同） コーチングの概要、相手の話を聴く姿勢、相手を認めるメッセージおよび相手の答えを引き出す質問について学ぶ。 （67 平林 香織・132 久保田 美恵子／3回）（共同） 聴覚障害者のコミュニケーションの実態と手話の構造、手話によるコミュニケーションのポイントおよび手話による意思疎通の実態について学ぶ。	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目群	実践英語	<p>本科目では、実社会で必要とされる総合的な英語運用能力の養成とともに、様々なシーンにおけるコミュニケーション能力の育成・向上を目指す。講義では主に、グローバル社会で医療人を志す学生が習得すべき技能や能力と関連したテーマを取り上げる。様々なアクティビティを通じて、日常生活やビジネス、医療現場等で幅広く活用できる実践的な英語表現やコミュニケーションに関する知識、方法を学修することで、今後、諸外国の人々と英語でスムーズに意思疎通を図ることができるよう訓練する。</p>	
	医療と福祉	<p>医療人を志す立場から多角的に福祉について考察する。福祉とは何かということ、行動科学や社会学からみた福祉のありかた、文化史的な相互扶助精神、法医学的観点による社会福祉論のように、多角的視点にたって理解する。また、社会保障制度、障害者福祉およびソーシャルワークについて理解するとともに、地域包括ケアシステムによる高齢者への支援体制と多職種（専門職）連携教育（Interprofessional Education: IPE）によるチーム医療・地域医療の実際について知見を深める。</p> <p>（オムニバス方式／全14回）</p> <p>（② 野村 陽子／1回） 病院とソーシャルワークについて学ぶ。</p> <p>（10 相馬 一二三／1回） 高齢者福祉について学ぶ。</p> <p>（19 最上 玲子／1回） ボランティア活動について学ぶ。</p> <p>（43 佐藤 洋一／1回） 医療倫理と福祉について学ぶ。</p> <p>（51 眞瀬 智彦／1回） 災害医療と福祉について学ぶ。</p> <p>（67 平林 香織／1回） 幕藩体制における相互扶助の文化について学ぶ。</p> <p>（87 相澤 文恵／2回） 社会福祉の変遷および医療人としての福祉について学ぶ。</p> <p>（98 八木 淳子／1回） 発達障がいの種類と治療について学ぶ。</p> <p>（111 佐々木 亮平／1回） ヘルスプロモーションについて学ぶ。</p> <p>（114 藤澤 美穂／2回） 障がいの種類と支援および地域における自立支援について学ぶ。</p> <p>（134 森谷 俊樹／1回） 地域包括ケアシステムについて学ぶ。</p> <p>（135 安田 敏明／1回） 僻地医療・在宅医療の実際について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	科学英語	<p>本科目は、語彙力の強化と、英語によるコミュニケーション全般の技能の向上を目的とした授業を行う。具体的には、科学に関する最新の英語に数多く触れ、ペアやグループでの作業やさまざまなアクティビティを通して、各分野の基本的で重要な表現を身に付ける。また、それらを用いて、正確な情報や自分の考えを相手に伝えるとともに、文章で表現する練習を行う。これらの作業を重ねることで、将来、医療の分野のみならず、あらゆる場面で発揮できる英語力について学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目群 教養教育科目	英語学	本科目は、英語を言語学的観点から研究する英語学の諸分野を概観する。英語学は、コミュニケーションの手段として英語を捉えるのではなく、英語そのものが持つ特徴や規則性を観察し、それらを記述し、原理的に説明することを通じて、人間が有する言語能力を明らかにしようとする学問である。英語学は大きく統語論、形態論、音韻論および意味論の下位分野に分かれており、本科目ではそれぞれの分野における研究対象や研究手法、基礎的なデータについて学ぶ。	
	医療と物語	医学と医療との違いを考え、人間関係に基づく医療行為を理解するために、近代科学と対極にある物語の世界について考える。医療面接においては病について語る患者のストーリーから病の原因と治療方法を探るナラティブ・メディシン（物語と対話に基づく医療）の両面から病を考えることが行われている。人はさまざまな要因によって病に陥る。本科目では、文学の物語享受のあり方を通して、本学附属病院ならびに災害時地域医療支援教育センターの臨床医の協力を仰ぎながら、病のストーリーを受容するため基本姿勢を学修する。とりわけ「死」をテーマにする文学作品を理解することによって、生きることと死ぬことの意味について学ぶ。 （オムニバス方式／全14回） （67 平林 香織／2回） ナラティブと医療の関係を理解する。生と死に関するさまざまな物語を理解する。メタファー（隠喩）が喚起する物語る力を体得する。終着ではなく過程としての死の物語を享受する。生の欲求と死の欲求の関係性をテキストで説明できる。他者のために生きる物語を精読できる。 （44 櫻井 滋・67 平林 香織／3回）（共同） 眠りと病の物語—行動睡眠医学の立場から学ぶ。 （51 眞瀬 智彦・67 平林 香織／3回）（共同） 災害医療の歴史と東日本大震災での医療活動について学ぶ。 （67 平林 香織・74 木村 祐輔／3回）（共同） 臨床における緩和ケアについて学ぶ。 （67 平林 香織・110 山本 佳世乃／3回）（共同） 臨床におけるナラティブ・カウンセリングについて学ぶ。	オムニバス方式・共同（一部）
	人間関係論	人間関係の基本は「自分自身を知る」ことである。一般的に人は他者に照合することによって自分自身を認識し、他者の存在によって自分の社会的役割を認識する。保健医療の現場では専門職が職務をスムーズに遂行する基盤として良好な人間関係を構築することが不可欠である。また、対象者とどのような人間関係を構築できるかが援助の質を左右することにつながる。医療の質や倫理が問われている今、医療人として人間関係のあり方やその特徴を理解することは重要な学修課題であり、本科目によって良好な人間関係を構築する方法を習得する。 （オムニバス方式／全14回） （87 相澤 文恵／13回） 人間関係、自己意識、対人認知、アイデンティティ、コミュニケーション、集団規範、リーダーシップ、集団意思決定、地域保健における多職種間の人間関係およびチーム医療における医療従事者間の人間関係を理解する。 （133 田沢 光正／1回） 地域保健における多職種間の人間関係を理解する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目群	パーソナリティ心理学	「パーソナリティ personality」は、日本語では「人格」と訳され、その人の“人となり”のことを意味する。心理学において「パーソナリティ」は重要な概念のひとつで、臨床心理学、発達心理学、社会心理学、そして精神医学においても中心的な概念として機能している。本科目では、心理学におけるパーソナリティの概念を整理し、パーソナリティ理解のために有用な心理学の諸理論を学ぶ。そして、個々人の個別性を理解し、「自分らしさ」「その人らしさ」を尊重できる態度を身に付ける。	
	哲学の世界	「人間とは何か」という問いに対して、自然科学や社会科学は人間の持つ一つの特性に着目し、それを解明することでこの問いに答えようとする。例えば、生物学であれば、遺伝子構造の観点から人間と他の動物の違いを説明し、経済学であれば、経済行動という観点から人間を説明する。他方、哲学は、こうした諸学の成果を踏まえつつ、トータルな人間の姿を描き出そうとする。本科目では、このような哲学の試みの一つとして、心と身体、性、経済、進化およびいじめ等をキーワードに、人間とはどのような存在なのかについて考える。	
	医療と法律	本科目では、日本国憲法の基礎的知識、とりわけ基本的人権の内容と意義、統治機構の基本原理と司法権および違憲審査制の理解を目的とする。基本概念・判例などの基礎的知識の獲得を大前提に、それらの知識を活用して、社会における多様な問題を、日常生活との関わりから捉え、憲法に関わる問題を独力で解き、自らの言葉で発言できる力を身に付ける。	
専門科目群	栄養学	本科目では、生化学、病理学概論で修得した知識を踏まえ、栄養素の種類とはたらき、体内代謝を学修するとともに、各ライフステージにおける栄養に関わる問題、疾病と病態に応じた栄養療法について学ぶことにより、看護ケアにおける栄養の重要性について理解を深める。また、近年の医療現場では、看護師としての専門性を活かしながら多職種協働のチーム医療の中でトータルな視点で患者と関わっていくことが求められることから、栄養ケア・マネジメントの概要や評価について解説し、栄養サポートチーム（NST）の中で看護職が果たす役割についても学修する。	
	生化学	生化学反応の場となる細胞と細胞小器官の構造と機能を理解する。エネルギーATPを産生し、生体成分を作り出す代謝反応が生命活動で果たす役割を理解し、代謝反応での酵素の働きを学ぶ。からだを構成する蛋白質、核酸、脂質やエネルギーを生み出す糖質やビタミンなどの栄養素を含めた分子の種類、基本構造、性質や役割を理解し、生命活動を支える物質について学ぶ。遺伝情報が次世代に伝わる仕組みを理解し、DNAの情報がRNAを介して蛋白質として発現し、その発現調節や遺伝情報の変化が生体に及ぼす影響について学ぶ。	
	感染免疫学	感染症の制御を理解することは、看護師にとって非常に重要である。感染免疫学では、微生物が人体に及ぼす影響と感染の機序を理解し、病因となる微生物の特徴について学ぶ。感染源と成り得る患者と感受性宿主が同一空間に存在する医療施設で従事する看護師として、医療従事者媒介感染を防止するための知識を修得する。また、生体が有する免疫機能を理解し、感染症に対する生体防御機構について理解する。さらに、感染防止とその対処方法について理解する。	
	基礎解剖学	我々の健康を維持するために必要な正常な人体の構造と機能を理解することは、人体がどのような仕組みで生命活動を維持する営みを行っているかを知ることだけでなく、病気の成り立ちや診断に対する、あるいは治療方針や看護計画などを立案する際の基礎知識ともなる。そのため、解剖学では、人体の形態と構造について系統的に学修するなかで、人体の成り立ちの基本原則と人体の構成要素である各器官の組織構築を、細胞・組織・器官の各レベルで統合的に学修する。また、それらが相互に密接に連携しながら機能している生命体としての人間を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 看護専門基礎科目	基礎生理学	生理学は生体の機能とそのメカニズムの解明を目指す生命科学の基幹となる学問である。基礎解剖学の授業と連携して人体の正常な機能全般について学ぶ。このことにより病気の本態が理解でき、それに基づいて治療や看護が行われる。本科目では、細胞や組織、器官がどの様に関連し統合されて機能しているかについて、単なる暗記だけではなく機能を理解する上で鍵になる基本概念を交えて学ぶ。また病態や症状との関連についても学修し、生理学的な基礎知識や思考力の修得と共に将来の実践に役立つ基礎力を修得する。	
	病理学概論	病理学は、生理状態の各臓器の構造・機能に係る知識を基に、病的状態での臓器の変化、原因、経過、転機あるいは死因を分析する学問である。疾病の病態生理を理解するために形態観察に加えて分子レベルでの機能や構造の異常と、個体への影響に関する知識を学修する。疾病を主に病因論、先天異常・奇形、炎症、代謝異常、循環障害、腫瘍に分けて、全身の各臓器に共通する病的変化についての理解を深め、疾病の成り立ちについて基本的な知識を修得する。	
	薬理学	医薬品が作用する原理と作用に影響を与える要因を理解し、医薬品の適正かつ安全な使用について重要なことや看護における注意点について学ぶ。生活習慣病やがんなどの疾患が発症する過程を理解する。その上で薬が疾患の治療に用いられる理由について学ぶ。治療手順および各薬剤の薬理作用についてその作用機序を理解し、想定される薬物有害反応とその対策について学ぶ。薬物の種類や剤形、投薬経路、対象者の年齢や基礎疾患などの違いによる薬物の吸収、代謝および排泄などの薬物動態の差を理解し、薬物の服薬指導の根拠となる事項を学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （12 塚本 恭正／11回） 薬理学総論、生活習慣病に使用する薬、脳・中枢神経系疾患で使用する薬、がん・痛み使用する薬、内分泌系・生殖器系の疾患に使用する薬および薬物投与量の計算について学ぶ。 （1 一ノ渡 学／4回） 感染に使用する薬、アレルギー・免疫の異常で使用する薬および消化器系疾患に使用する薬について学ぶ。	オムニバス方式
	臨床心理学	こころの諸問題へのアプローチについて、臨床心理学の基盤となる理論を理解する。また臨床心理学の歴史、臨床心理学と精神医学の関わり、精神病理の理解およびメンタルヘルスの保持増進について理解を深める。さらに臨床心理学の主要3領域（臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理学的地域援助）の方法および倫理について、広く基礎的な知識を修得する。本科目の学修を通じ、臨床の現場で求められる柔軟で合理的な思考と、他者尊重的な態度を修得する。	
	疾病論 I	看護職が安全で適確な看護を実践するためには、様々な疾病に関する正確かつ最新の知識が必要である。本科目では、患者の疾病を理解し、適確な看護を行うために、日常の看護医療において遭遇する代表的な内科疾患を中心に、症状、病態生理、検査、診断および治療等について学修する。また、一人の人間としての患者のあらゆる変化に対応し、有効な援助ができるように、各疾病特有の身体的、心理的および社会的な問題についても理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 看護専門基礎科目	疾病論Ⅱ	<p>外科学総論として、外科患者の病態と看護、手術侵襲、外科的感染症、ショック、腫瘍、外科的診断法、外科治療の実際、栄養管理、周術期管理、内視鏡外科手術および臓器移植の実際を学ぶ。各論では、消化器疾患、内分泌・代謝疾患および小児疾患に大別し、主要疾患の基礎知識、手術方法および合併症について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(33 佐々木 章／3回) 【周術期管理、内視鏡外科手術、内分泌および代謝疾患】インフォームドコンセント、医療事故、周術期の看護の要点および高齢者の看護について学ぶ。また、低侵襲手術である内視鏡外科手術の概要（歴史、現状、特徴、手術方法と合併症）および先端治療であるロボット支援手術について学ぶ。さらに、主要な甲状腺・副甲状腺疾患、副腎疾患、糖尿病、肥満症の基礎知識、手術方法、周術期管理および合併症と手術を受ける患者の看護について学ぶ。</p> <p>(78 水野 大／1回) 【小児外科疾患】主要な小児外科疾患の基礎知識、手術方法、周術期管理、合併症と手術を受ける患者の看護について学ぶ。</p> <p>(79 肥田 圭介／2回) 【外科的診断法、胃・十二指腸疾患】診察法（頸部、乳房、腹部、直腸・肛門）、胸部・腹部画像診断およびナビゲーションサージェリーについて学ぶ。また、主要な胃十二指腸良性・悪性疾患の基礎知識、手術方法、周術期管理および合併症と手術を受ける患者の看護について学ぶ。</p> <p>(90 秋山 有史／2回) 【外科学総論、食道疾患】外科患者の病態と看護、外科侵襲と生体反応、外科的感染症および外傷とショックについての基礎知識を学ぶ。また、主要な食道良性・悪性疾患の基礎知識、手術方法、周術期管理および合併症と手術を受ける患者の看護について学ぶ。</p> <p>(91 岩谷 岳／2回) 【外科治療の実際、栄養管理】基本的な外科手技（切開法、ドレナージ、止血法、縫合法）、麻酔法、気道確保法および創傷管理について学ぶ。また、栄養状態の評価、周術期の輸液・栄養管理および輸血療法について学ぶ。</p> <p>(92 大塚 幸喜／2回) 【小腸・結腸疾患、直腸・肛門疾患】主要な小腸疾患、結腸疾患の基礎知識、手術方法、周術期管理、合併症と手術を受ける患者の看護について学ぶ。また、主要な直腸疾患、肛門疾患の基礎知識、手術方法、周術期管理、合併症と手術を受ける患者の看護について学ぶ。</p> <p>(93 新田 浩幸／2回) 【臓器移植、肝臓・胆道・膵臓疾患】肝移植の基礎知識、適応疾患、手術方法、周術期管理と合併症について学ぶ。また、主要な肝臓疾患、胆道疾患、膵臓疾患の基礎知識、手術方法、周術期管理、合併症と手術を受ける患者の看護について学ぶ。</p> <p>(94 西塚 哲／1回) 【腫瘍】腫瘍の定義、発癌、腫瘍の生物学的特徴、癌遺伝子・癌抑制遺伝子、腫瘍の診断と治療および抗癌剤の種類と作用機序について学ぶ。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 看護専門基礎科目	疾病論Ⅲ	<p>看護学を学ぶ上での基礎的知識を修得することを目的とする。代表的な各診療科疾患（脳神経外科疾患、泌尿器科疾患、婦人科疾患、整形外科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、障害者歯科疾患）の特徴（症状、病態生理、検査と処置、治療等）について理解する。また、患者の看護にあたってどのように対応し、実践していくのかを、身体的、心理的および社会的側面から学修する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（35 土井田 稔／2回） 整形外科は、身体の姿勢および運動器（骨・関節・靭帯・筋肉・脊髄・神経など）に関する臨床医学である。運動器疾患の基礎、疾患、診断、治療法を学ぶことにより、運動器に障害をもつ患者の看護について学ぶ。</p> <p>（37 佐藤 宏昭／1回） 会話によるコミュニケーションや日常生活のQOLを著しく低下させる聴覚障害および平衡障害について、原因となる疾患を概説し、診断、治療、ならびにリハビリテーションの現状について学ぶ。</p> <p>（38 黒坂 大次郎／2回） QOLに重要な視覚情報に関わる眼科領域を、解剖学的、視機能的に理解するとともに、その代表的な疾患の症状・病態・治療法を学ぶ。さらに、外科的なアプローチや眼科的検査法について理解を深める。</p> <p>（39 小原 航／2回） 代表的な腎・泌尿器系疾患の特徴（症状、病態生理、検査と処置、治療等）を理解するとともに、急性および慢性期患者に対する治療・看護のあり方について学ぶ。</p> <p>（45 志賀 清人／1回） 鼻・副鼻腔・口腔・咽頭・喉頭は、上気道や上部消化管としての働きを持つと同時に発声・構語といった機能や味覚・嗅覚などの感覚器としての働きをあわせ持っている。感染症や腫瘍性病変について中心に学ぶ。</p> <p>（75 高橋 和宏／2回） 基礎医学で修得した知識を基盤に、看護法の展開に必要な代表的な皮膚疾患の症状・病態・治療法を学ぶ。加えて、皮膚感染防御や皮膚衛生管理、皮膚疾患の看護について特に配慮すべき点や検査方法について習得する。</p> <p>（84 小山 理恵／2回） 女性特有な疾患である月経困難症と骨盤内臓器（子宮と卵巣）の良性・悪性疾患の特徴を理解し、かつ、その看護のあり方を学ぶ。特に、月経困難症および内膜症は成熟期女性にとって重要な疾患であり看護の立場からいかに患者と接するかを学ぶ。</p> <p>（85 久慈 昭慶／1回） 歯科および口腔外科の疾患と、その治療について学ぶ。また、障害者や全身疾患を有する患者の歯科治療、さらには周術期患者の口腔管理における看護師の役割について学ぶ。</p> <p>（95 吉田 研二／2回） 中枢神経系の正常な解剖学・生理学的知識を復習した上で、脳血管障害、腫瘍、外傷、先天奇形、感染性疾患、機能的疾患など、病態についての医学的知識を修得する。検査法や治療法を理解し、周術期管理や合併症についての注意点について論理的な根拠が提示できる力を身に付ける。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	看護専門基礎科目 疾病論Ⅳ	<p>正常な臓器や組織・細胞の形態および機能を理解すると共に、発症から進行あるいは回復、さらに治療による病像の推移などを理解する。本科目では、老年科、小児科、産科、精神科、臨床遺伝学における特徴的な疾患を取り上げる。臨床で遭遇する頻度の高い疾患の病態生理を中心に理解し、看護実践の基本となる知識を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（32 寺山 靖夫／3回） 老年医学では、生理的加齢変化、老年者の特徴を学び、老年者に多い疾患に関する総合的な知識を修得する。さらに、それらを理解した上で老年者に対する薬物療法、治療、保健福祉対策などについて理解する。</p> <p>（40 福島 明宗／3回） 先天性疾患のみならず、生活習慣病においても遺伝的要素の関与が近年明らかとなり、各種疾患の正しい理解を行う上で、遺伝医学の知識は必要不可欠になってきている。臨床遺伝学総論として各種遺伝性疾患の概念を学ぶとともに、正しい遺伝情報を得るために必要なツールである家系図の作成方法を学修する。加えて臨床遺伝学各論として、周産期関連および腫瘍関連の代表的疾患に関して学修する。</p> <p>（52 大塚 耕太郎／3回） 現代の精神疾患をはじめとするメンタルヘルスの問題についての基本的知識を整理し、加えて、代表的な精神疾患の特徴やケアについて学ぶ。また、精神看護の役割と基本についての理解を深める。</p> <p>（80 遠藤 幹也／3回） 正常な小児の成長および発達について理解する。加えて乳幼児健康診査、新生児の生理的特徴について学ぶ。また、小児期における特有の疾患（川崎病、特発性若年性関節炎）および主な予防接種について学ぶ。</p> <p>（84 小山 理恵／3回） 女性を取り巻く社会情勢とそれに関連する母性を対象とした看護のあり方を学ぶ。また、女性生殖器の解剖と生理的变化を学ぶ。加えて両性の立場から妊娠期、分娩期および産褥期での精神・心理の変化と新生児との愛着形成について、看護の立場から対象と看護が如何に関わるかを学ぶ。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 看護専門基礎科目	医学・医療入門	<p>看護を学ぶ初学者である学生が、医療提供の仕組みやその実際についての理解を深められるように、医療や福祉の分野で実際に医療やケアを提供している医療関係職種や管理者、ケアを提供している実務スタッフなどから、現状と課題などについて学ぶ。さらに、ディスカッションを通して、将来の看護職として自らが期待されていることや医療に関わることの意義について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 嶋森 好子/1回) 安全かつ信頼される看護と医療を実践するために必要な看護プロフェッショナルリズムについて学ぶ。</p> <p>(8 遠藤 龍人/1回) 保健、医療、福祉および介護等のチーム連携における看護職の役割を学ぶ。</p> <p>(③ 秋山 智弥/1回) 病院機能によって求められる看護職の専門性と問題点について学修し、継続医療・看護を推進するための人材交流やキャリア形成の意義について理解を深める。</p> <p>(④ 三浦 幸枝/1回) 看護職としてのキャリア形成の意義について学修するとともに、専門職として従事している実務スタッフの経験を通して、自身が目指す看護職について理解を深める。</p> <p>(36 杉山 徹/1回) 岩手医科大学附属病院の現状と今後のあり方について学ぶ。</p> <p>(43 佐藤 洋一/2回) 岩手医科大学の歩みと果たす役割および医学の歴史と医療プロフェッショナルリズムについて学ぶ。</p> <p>(50 伊藤 智範/1回) 地域医療の現状と課題について学修するとともに、看護職が果たす役割について理解を深める。</p>	オムニバス方式
	公衆衛生学・疫学	<p>公衆衛生学は、保健・医療・介護・福祉を含むきわめて広範囲な学問である。それぞれに対応した法律があり、法体系について学ぶことも大切である。また、医療・介護に至らないようにする予防医学も公衆衛生学の重要な役割である。分野別には、地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、食品保健等がある。それぞれの分野での多様な疾病の疫学的な特徴と予防方法について学び、そのエビデンスを提供する疫学についての知識と技法を習得する。</p>	
	保健統計学	<p>本科目では、因果関係の判定、疫学、人口統計、確率および統計の考え方を概説するとともに、推測統計学の基礎と保健医療分野での推定方法、検定方法について学修する。また、統計処理ソフトを用いた推定、検定の演習を行い、推測統計学の考え方の理解を深める。さらに、人間集団の健康問題を明らかにし、その要因を見出して健康問題解決へと繋げる目的で、各種保健統計指標やEBMに用いられる各種指標を理解する。保健医療の現場で統計学を効果的に応用する基礎能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 看護専門科目 基礎看護学	看護学概論	本科目は、看護学の導入部であり、かつ各看護専門領域への橋渡しの役割を持っている。具体的には、看護の歴史の変遷、看護の対象、健康と看護、看護活動の場・内容・方法そして看護職の役割、多職種との連携の重要性等を学び、看護の特徴を理解する。それにより看護を概観でき、今後の学修のイメージをもつことができる。 （オムニバス方式／全15回） ① 三浦 まゆみ／11回 授業への導入 - 看護学の組み立て、看護の歴史の変遷、看護と健康、看護の対象の理解（家族・集団）、看護の機能と役割（法の位置づけと専門性、多職種との連携、保健医療福祉チームの中の看護）、看護実践を支える理論（ナイチンゲール、ヘンダーソン、ペプロウ）および看護職に対する社会の期待と責任について学ぶ。 ⑥ 高橋 亮／1回 看護の対象としての小児の特徴を理解する。 ⑦ 蛸崎 奈津子／1回 看護の対象としての母性の特徴を理解する。 ③ 秋山 智弥／1回 看護の対象としての成人期の特徴を理解する。 ⑩ 相馬 一二三／1回 看護の対象としての老年期の特徴を理解する。	オムニバス方式
	看護倫理学	看護ケアの原理の1つである人間の尊厳と権利の擁護は、実践の基盤となるものである。この理念の実現には看護者の高い倫理観が求められる。倫理観の形成には、生命倫理、医療倫理に関する理論や原則、看護実践に伴う倫理的概念やそれと矛盾する事態を洞察しなくてはならない。そのため学生が実習等で出会った倫理的問題を事例として、学生自らの問題として事態の性質を分析し、倫理的問題解決を探ることで、専門職としての主体的な行動能力と責任感について学ぶ。 （オムニバス方式／全8回） ① 嶋森 好子／1回 医療倫理と医療安全として、医療職者の倫理綱領を検討し、プロフェッショナルとは何か、その役割の本質を学ぶ。臨床において安全な医療を実践していく中で、「医療倫理学」はどのように活用されているのか、その実際について学ぶ。 ⑤ 遠藤 太／7回 倫理とは何か（医療倫理の歴史的推移）、原則の倫理・徳の倫理、ケアの倫理・ナラティブの倫理、倫理的問題の検討方法、実習体験の倫理的振り返りおよび臨床現場の倫理最前線について学ぶ。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	看護専門科目	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ
			基礎看護学Ⅱ

看護技術とは何かを理解し、あらゆる健康レベルの人々への看護行為に共通な基本技術を学ぶ。人間関係を成立および発展させる技術で対象者と関わる基本を学ぶ。また、療養生活環境を整えること、ボディメカニクス、感染防止の技術、睡眠と休息について学ぶ。ベッドメイキングやリネン交換、寝衣交換、移乗、移送および手洗いについて、演習を通してその技術を習得する。

(オムニバス方式/全15回)

(① 三浦 まゆみ/3回)
看護技術とは何か、人間関係を成立および発展させるための技術としてのコミュニケーション、人が生活するとはどういうことか、人と環境ならびに療養生活環境について学ぶ。

(⑥ 柏木 ゆきえ/3回)
看護技術の中の基礎的な生活援助技術としてのボディメカニクスの意義と原則、看護におけるボディメカニクス、感染防止の基礎知識・スタンダードプリコーションおよび睡眠・休息の基礎知識について学ぶ。

(① 三浦 まゆみ・⑥ 柏木 ゆきえ・⑨ 小松 恵・⑩ 小林 由美子・⑪ 野里 同・⑫ 小坂 未来・⑭ 佐藤 奈美枝/9回) (共同)
演習を通して講義で学んだベッドメイキング技術、リネン交換の援助技術、体位変換の援助技術、移乗、移送(車椅子)の援助技術、衣生活の援助、寝衣交換法および感染防止技術を学び、それぞれの技術とその組み合わせについて習得する。

オムニバス方式
・共同 (一部)

講義12時間
演習18時間

基礎看護学Ⅰの学修を基に、健康的な日常生活を促進する基礎的な援助技術について学ぶ。具体的には、全身清拭・足浴・洗髪のような清潔を保つ援助、食事介助・口腔ケア・経管栄養のような食事行動への援助、床上排尿・導尿、床上排便・浣腸のような排泄の援助、電法を用いて安楽を促す援助などのそれぞれの技術を習得する。

(オムニバス方式/全15回)

(⑥ 柏木 ゆきえ/4回)
日常生活を促進するための援助技術である清潔、食事・栄養、食事行動・排泄・安楽についての援助技術の意義および基礎知識を学ぶ。単なる手技ではなく、解剖生理学や心理学の知識を基にその技術が人を対象にしていることを意識する。

(① 三浦 まゆみ・⑥ 柏木 ゆきえ・⑨ 小松 恵・⑩ 小林 由美子・⑪ 野里 同・⑫ 小坂 未来・⑭ 佐藤 奈美枝/11回) (共同)
演習を通して清潔援助(身体の清拭、足浴、洗髪)、非経口的栄養摂取の援助技術、食事介助・口腔ケア、経管栄養、自然排尿の援助技術(床上排尿、床上排便)、陰部洗浄、浣腸および電法の援助の実技を学び、その上で、場面設定した事例に対して複数の援助技術を組み合わせた応用技術を習得する。

オムニバス方式
・共同 (一部)

講義 8時間
演習22時間

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 看護専門科目 基礎看護学	基礎看護学Ⅲ	<p>本科目は、人体の構造と機能を理解した上で臨むことが前提である。バイタルサインの測定の技術の習得をはじめ、DVDやシミュレーターを十分に活用し、看護におけるフィジカルアセスメントの意義や重要性を理解する。そして、全身状態を観察する健康状態の査定に関する技術を学ぶ。さらにフィジカルアセスメントだけでなく、心理社会的アセスメントであるヘルスアセスメントも加え、対象のアセスメントを理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑥ 柏木 ゆきえ/3回)</p> <p>看護におけるフィジカルアセスメントの意義や重要性について理解し、フィジカルアセスメントの共通する技術について学ぶ。また、健康歴・病歴聴取の仕方、面接技法および系統的レビューについて学ぶ。その際、ヘルスアセスメントも重要であることを理解する。</p> <p>(⑪ 野里 同・⑫ 小坂 未来/6回) (共同)</p> <p>解剖学の知識の復習・予習を組み込みながら、系統的レビューを具体的に取り上げ、呼吸器系、循環器系、筋・骨格系、腹部消化器系、中枢神経系および脳神経・感覚器系それぞれのアセスメントについて、DVD、シミュレーター等を活用しながら学ぶ。</p> <p>(⑥ 柏木 ゆきえ・⑨ 小松 恵・⑩ 小林 由美子・⑪ 野里 同・⑫ 小坂 未来・⑭ 佐藤 奈美枝/6回) (共同)</p> <p>これまで単独で学んできたフィジカルアセスメントについて、提示された事例をグループ単位で看護過程の学びも取り入れ、バイタルサインズ(体温、脈拍、呼吸、血圧)の測定やフィジカルアセスメントを展開し、フィジカルアセスメントについて理解を深める。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部) 講義 6時間 演習24時間
	基礎看護学Ⅳ	<p>対象の看護ニーズに適した看護を展開するための基盤となる看護過程について学ぶ。看護の実践を支える多くの理論がある。それぞれの看護理論はどのように看護の対象を捉え、看護そのものを捉えているのか、紐解いていく。そこから看護のアセスメントの視点を見出し、看護ニーズの査定方法の立案、実施および評価の過程にそって看護を論理的に進める方法を理解する。</p>	
	基礎看護学Ⅴ	<p>健康上の問題を持つ対象の安全、安楽および自立を図り、看護援助としての診療に伴う援助技術を学ぶ。具体的には、吸引・吸入・酸素吸入という呼吸を整えるための援助、包帯法、無菌操作、薬物療法として注射の実施および血液検査などの検査等について演習を通して技術の習得を目指す。またエンゼルケアという考え方にも触れる。この授業は2年次前期に開講し、夏季休暇を経て、すぐに基礎看護学実習Ⅱが実施される。実習も見据え、終盤には事例を用いて看護過程を展開し、看護技術を活用することによって、看護を展開することの奥深さについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑥ 柏木 ゆきえ/4回)</p> <p>呼吸を整えるための援助技術、検査時の基礎知識および検査時の援助方法について学ぶ。</p> <p>(① 三浦 まゆみ・⑪ 野里 同・⑫ 小坂 未来/9回) (共同)</p> <p>感染予防の第2段階としての無菌操作方法、薬物と看護、薬物療法の基礎知識および注射実施時の基礎知識について学ぶ。</p> <p>(① 三浦 まゆみ・⑥ 柏木 ゆきえ・⑨ 小松 恵・⑩ 小林 由美子・⑪ 野里 同・⑫ 小坂 未来・⑭ 佐藤 奈美枝/17回) (共同)</p> <p>演習を通して、吸引・吸入・酸素吸入の基礎知識と援助方法、創傷保護のための看護 - 包帯法、感染制御 (清潔操作および隔離予防策)、導尿の実際、薬物療法時の援助方法、注射実施時の援助方法、注射器の取り扱い、薬液の吸上げ、皮下・筋肉内・静脈内注射および血液検査の実技を学び技術を習得する。また、医療機器を使用している対象者への看護および褥そうの予防と看護について学ぶ。さらに基礎看護学Ⅳで学んだ看護過程の展開も活用し、提示された紙上事例に必要なケアの実施評価という応用にも取り組む。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部) 講義 8時間 演習52時間

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 看護専門科目 成人看護学	成人看護学概論	成人期にある者およびその者の家族等を対象とした急性期から慢性期を通じた看護について理解する。具体的には、臨床現場での意思決定および意思決定支援、健康と病気の経験および家族やグループの多様な倫理・文化・地理的背景とは何かについて、学びを深める。 （オムニバス方式／全8回） ③ 秋山 智弥／4回 成人の生活と健康、成人への看護アプローチの基本、急激な健康破綻をきたした成人への看護および治療過程にある患者への看護について学ぶ。 ④ 三浦 幸枝／4回 慢性疾患との共存を支える看護、学修者である患者への看護、症状マネジメントにおける看護および人生の最期を迎える患者への看護を学ぶ。	オムニバス方式
	成人看護方法論 I	本科目は、慢性期・終末期にある対象に対する成人看護に必要な基礎的看護技術について学ぶ。慢性疾患を抱える対象者の病態、検査・治療の目的および心理を理解し、対象者が自己管理能力を高めるための看護を学ぶ。また、終末期にある対象者とその家族の特徴を理解し、看護援助の方法を学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） ④ 三浦 幸枝／8回 慢性看護の考え方、慢性疾患を持つ人の特徴および療養の特徴、慢性疾患を持ちながら生きるということ（病みの軌跡とケア）、慢性期にある人と家族の特徴と理解および看護援助ならびに消化器系の疾患を持つ人のケアについて学修する。また、内分泌・代謝系の疾患を持ち長期慢性的な経過をたどり、様々な点で生活上のサポートや生涯にわたり生活のコントロールを必要とする対象への看護を学修する。 ⑧ 横田 眞理子／7回 脳神経系・呼吸器・循環器の慢性疾患および造血器腫瘍を持つ人へのケア、慢性疾患の緩和ケア・家族ケア、心理社会的側面のケア、スピリチュアルケアならびに意思決定支援とコミュニケーションについて学修する。また、自己免疫系の疾患を持ち長期慢性的な経過をたどり、様々な点で生活上のサポートや生涯にわたり生活のコントロールを必要とする対象への看護を学修する。	オムニバス方式
	成人看護方法論 II	成人看護学概論を基に、成人期にある者およびその者の家族等を対象とした急性期から慢性期を通じた看護に関して、特に、急性期に焦点を当てた方法論を学ぶ。具体的には、急性期にある患者の事例を通して、身体的・心理的・精神的側面からのアセスメントの実施方法、生物学・解剖学・生理学・病理学・薬理学・社会学の知識を統合して、看護過程を展開する方法を学ぶ。その際、最新研究から得られた知見を用いて、科学的根拠を持った看護ケアを提供することを想定した事例を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目 群	成人看護学	演習やグループワークを通して、成人期における健康障害をもった対象者の経過事例を用いて問題解決能力を養い、対象の状況にあった適切な看護技術や看護援助の実際を体験により学ぶ。また、学修した知識を看護実践に統合し活用する力を身に付ける。 （オムニバス方式／全15回） ④ 三浦 幸枝／4回 慢性期看護の概念と特徴を踏まえ継続的に治療を必要とする対象への看護を学ぶ。演習では、様々な障害を持つ対象の疑似体験や、代表的な慢性疾患をもつ対象の事例を用い、看護過程の展開についてグループワークを通して学ぶ。 ④ 三浦 幸枝・⑧ 横田 真理子・⑬ 藤澤 純子／11回（共同） 成人期にある人への健康教育（ロールプレイ）、自己血糖測定、インスリン自己注射（演習）、成人期にある人の家庭での役割と健康の維持・増進、成人期にある人の特性を踏まえた看護ケア方略および慢性疾患患者の事例による看護過程を展開し、慢性疾患患者を多面的にとらえることができる力を身に付ける。	オムニバス方式・共同（一部） 講義 8時間 演習22時間	
		成人看護学演習 II	成人期にある者およびその者の家族等を対象とした急性期から慢性期を通じた看護に関して、特に、急性期に焦点をあてた実際の方法を演習を通して学ぶ。具体的には、成人看護方法論IIで取り組んだ事例をシミュレーターや模擬患者を活用して再現し、成人看護方法論IIで学んだアセスメントや看護ケアを演習を通して実践する。その際、事例への看護ケアは、臨床現場を意識し、臨床判断、問題解決および優先順位をつけるなど、時間管理の能力を身に付ける。	共同
	老年看護学	老年看護学概論	超高齢社会を迎えた現在、高齢者は、生きてきた背景や価値観も異なる。核家族で生活している学生にとって、高齢者を身近な存在として関心を持つことから始めていく必要がある。本科目は、ライフサイクルから見た老年期の特徴を理解し、高齢者にとっての健康および加齢に伴う諸機能の低下が高齢者個々の生活にどのような影響をもたらすかを学び、それを支援していく老年看護の在り方を解説し、高齢者の生活の質の確保に必要な高齢者の人権擁護、倫理的課題や社会保障の現状と課題を学び、老年看護の役割を学ぶ。	
		老年看護方法論	高齢者の健康障害は、生活習慣を反映した個別性があることを学ぶ。また、健康障害の要因をアセスメントし、高齢者のQOLの向上に向けた看護を学ぶ。さらには、根拠をもち看護実践ができることを重視する。高齢者のヒストリー聴取の技術、高齢者のバイタルサイン測定の特徴、尿失禁のある患者の看護、脳血管障害のある患者の看護（麻痺・嚥下障害のある人の看護）および認知症のある人の看護を学ぶ。	
		老年看護学演習	老年期は、身体の諸機能が低下するが、衰退現象のみに視点を置くのではなく、高齢者の持てる力に注目し、セルフケア能力を活用した自立・自律の援助が大切である。高齢者に特徴的な疾患・症状を学び、援助の必要性の科学的な根拠を持ち、個別に応じた援助ができるよう知識・技術を学ぶ。また、高齢者のセルフケア能力の向上を支援する技術・態度を習得する。さらに、最後までその人らしく生きることを支援する方法を身に付ける。	共同
	小児看護学	小児看護学概論	現代社会における子どもとその家族の健康上の問題や小児看護の特性を学ぶ。主な内容として、小児看護の概念、小児保健の動向、小児看護の変遷と課題、小児看護の機能と役割、成長・発達の指標と評価および小児の各成長・発達段階（新生児・乳児期、幼児期、学童期、思春期）に応じた看護を学ぶ。また、子どもの権利の視点に立ち、小児のインフォームド・コンセントおよびインフォームド・アセントについて学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目 群	小 児 看 護 学	健康障害をもつ子どもとその家族に対して必要な看護援助の内容や方法、適切な看護を行うための基礎的知識を学ぶ。主な内容としては、健康障害が子どもと家族へ及ぼす影響、急性期・慢性期・周手術期・終末期にある小児の看護、行動制限に伴う小児の看護および事故防止と感染予防等についての知識と看護援助の方法について学修する。さらに、健康障害を抱えながら生活している子どものQOLを向上させ、苦痛を緩和する看護についても併せて学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （6 高橋 亮／8回） 健康障害が子どもと家族へ及ぼす影響、急性期・慢性期にある小児とその家族への看護および行動制限に伴う小児の看護を学ぶ。 （19 最上 玲子／7回） 周手術期および終末期にある小児の看護、小児の安全対策と事故防止ならびに小児感染症に関わる看護援助の方法についてを学ぶ。	オムニバス方式	
		小児看護学演習	子どもの成長発達と健康生活を促進するために必要な知識や看護援助技術を習得する。また、健康障害をもつ子どもに必要な看護援助について理解し、基本的な小児看護技術を習得する。具体的には、小児のフィジカルアセスメントや治療・検査の援助、小児の主要な症状に合わせた看護援助方法、救急処置が必要な小児の看護援助方法を学ぶ。さらに、健康障害をもつ小児の代表的な事例を取り上げ、小児の特徴および発達段階をとらえた健康障害の理解と、看護過程の展開方法について学ぶ。	共同
	母 性 看 護 学	母性看護学概論	母性看護の基盤となる概念を踏まえ、女性の一生を通じた健康の保持・増進および次世代の健全育成をめざす看護のあり方を理解する。また、母性看護の主な対象となる妊娠・分娩・産褥・新生児の基本的な生理を理解する。具体的には、母性看護の基盤となる概念（リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーション、セクシャリティ等）、女性のライフステージ各期における看護、リプロダクティブヘルスおよび妊娠・分娩・産褥・新生児の生理に関する内容を学ぶ。	
		母性看護学方法論	新しい家族の誕生のスタート時期にあたる妊娠期および分娩期にある対象の身体的・心理社会的特性を理解する。そして、母児ともに健康な妊娠経過および分娩経過をたどることを促す基本的な看護のあり方を学ぶ。具体的には、妊娠期の母体の生理的変化、胎児の発育と生理的変化、妊娠期の心理社会的特性、妊娠期の看護、分娩の要素と経過、分娩期の看護、各期の異常、看護過程（事例展開）、看護ケアの実際について学修する。 （オムニバス方式／全15回） （7 蛸崎 奈津子／9回） 妊娠期および分娩期の看護実践の基盤となる対象の身体的・心理社会的特性を理解する。具体的には妊婦や胎児の生理的変化、妊婦の心理社会的特性、分娩の要素とその経過、妊娠期・分娩期における看護の役割について学修する。また、妊娠期・分娩期に行う看護援助方法を学び、事例に基づく看護過程を展開する。 （20 遊田 由希子／3回） 分娩期における対象の特性を踏まえた看護の基本を学ぶ。また分娩期における異常とそれに対応する基本的な看護支援について学修する。 （21 西里 真澄／3回） 妊娠期における対象の特性を踏まえた看護の基本を学ぶ。また妊娠期における異常とそれに対応する基本的な看護支援について学修する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 看護専門科目	母性看護学	妊娠期・分娩期における看護の役割に関する概観を踏まえ、その後続く産褥期、新生児期について、その対象の身体的・心理社会的特性を理解する。また、対象が健康を保持・増進しながら経過するための基本的な看護のあり方を学ぶ。そして、事例展開による看護過程の学修や演習による基本的な看護ケアの実際について体験的に学修する。具体的には、新生児の生理、新生児の看護、産褥期の身体的・心理社会的特性、産褥期の看護、看護過程（事例展開）および看護ケアの実際（演習）について学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （7 蛸崎 奈津子／7回） 産褥期の看護実践の基盤となる対象の身体的・心理社会的特性を理解する。また新生児の生理的特性についても学ぶ。それを踏まえ、産褥期および新生児期における看護の役割について学修する。 （7 蛸崎 奈津子・20 遊田 由希子・21 西里 真澄・31 高橋 淳美／8回）（共同） 新生児の生理的特性を踏まえ看護の基本を学ぶ。産褥期の対象の特性を踏まえ看護の基本を学ぶ。また腹式帝王切開術時の母子の看護の実際についても学修する。新生児期・産褥期に行う看護援助方法を学び、事例に基づく看護過程を展開する。	オムニバス方式 ・共同（一部） 講義14時間 演習16時間
	精神看護学概論	精神的な健康の問題を抱えている人を、ただ精神障害者と規定せずに、その人に固有の生活の文脈から理解する。看護師は自らをケアの提供者として最大限に生かしながら、患者と家族に関わることを学修する。患者と家族の生活史や家族背景、地域の文化や環境が与える要因を把握し、患者の言動の持つ意味を多面的に理解する。その理解のために人格の発達と病理、精神と身体、家族、集団および社会のダイナミクスについて学ぶ。	
	精神看護方法論	精神看護を行うための考え方や実践方法を学び、精神保健領域において看護援助を行う上での基礎的な知識と技法を習得する。そのため精神医療の現状や課題について説明でき、精神疾患患者の回復を助けるために必要な治療的援助関係を理解し、精神医学の診断・治療はどのような理論や基準とともに行われているのか、さらに生活支援のための保健医療福祉サービスの実際および精神保健看護における課題について学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （4 末安 民生／4回） 精神医学と精神障害の定義、精神保健福祉制度の歴史の変遷および障害論などの精神障害をめぐる多様性とコミュニティケアの意義ならびに地域精神看護における生活支援の実際について学ぶ。 （5 遠藤 太／7回） 精神障害の状態像、症状の理解と検査および観察と治療を知り、疾患別の精神看護の対処の意義の理解とその活用について学ぶ。また、入院治療と看護の展開として精神科における入院治療環境と入院のメリットとデメリットについて学ぶ。 （16 三宅 美智／4回） 精神科における急性期看護の基本理念と方法、身体的なケア、隔離身体拘束の際の安全管理および隔離室の治療環境の確保などを学ぶ。また、入院治療と看護の展開として安全性の確保および緊急事態の対処について学ぶ。	オムニバス方式
	精神看護学演習	精神保健上の問題を抱えている患者を、患者としてだけ見定めるのではなく、その人に固有の生活の背景や、家族と地域生活との関係において理解する。精神疾患をもつ患者の回復を助けるために必要な治療的援助関係をアセスメントし、看護師が自らケアを提供する手段や方法を事例を用いて関わり方を学修する。特に患者の生活史や家族背景、地域環境要因を把握し、患者の言動の持つ意味を多面的に理解できることによって、治療の場の構造や文化を看護に活用する力を身に付ける。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 看護専門科目 在宅看護学	地域看護学Ⅰ	看護専門職として、地域で生活する人々の健康を支える視点を学ぶ。目標としては、プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーションおよび地域包括ケア等地域看護の基本的な知識を身に付け、人々の健康ニーズをライフサイクルや健康レベルによって理解する。また、疾病予防や健康を保持増進する活動について基本的知識を理解し、プライマリ・ヘルスケアの概念に基づく医療活動、そして生活支援をする福祉活動を学び、看護職の役割を理解するとともに、地域で活躍する看護職の看護活動の実際を知る。	
	地域看護学Ⅱ	地域で生活する人々の健康やQOLの向上を目指した看護活動を理解する。目標としては、地域看護学の基本的概念を理解し、地域看護活動として公衆衛生看護、在宅看護および学校保健等の多様な活動について学修する。さらには、諸外国における地域看護活動を学び、グローバルな健康課題を理解するとともに、社会情勢と健康課題の関連を学ぶことで、看護職の対応を広い視野で学修する。	
	地域看護学方法論	地域における看護活動を行うための方法である家庭訪問、健康相談、健康診査、健康教育、グループ支援および地区組織活動の育成について、その目的、対象および技術を学ぶとともに、企画、実施および評価について学修する。これにより、対象者の特性に応じた支援方法を考える能力を修得する。その上で、地域における医療、保健、福祉、住民組織およびNPO等との関係を理解し、地域包括ケアシステムを構築するための知識を学ぶ。 （オムニバス方式／全8回） ② 野村 陽子／2回 地域の健康課題に応じた支援方法の全体像を理解し、地域包括ケアにおける多職種連携について学ぶ。 ⑬ 大澤 扶佐子／6回 保健活動としての家庭訪問の目的および対象を理解し、そのプロセスを学ぶ。また、健康相談の目的と対象について学び、相談技術と健康相談のプロセスを学ぶ。そして対象に応じた健康診査の目的と対象を理解し、健診の企画と評価について学ぶ。またグループ支援の特性とその発展過程について学び、看護職の役割を理解する。	オムニバス方式
	地域看護学展開論	地域で生活する人々の発達段階および健康課題に対応した保健活動の特徴について学び、母子保健、成人保健、高齢者保健、精神保健、障害者対策、難病対策、感染症対策および災害対策等における保健活動の展開方法を理解する。そして、健康課題を解決するための保健活動の課題についても学修する。また、学校保健や産業保健における保健活動の特性を理解し、それぞれの場の特徴と保健活動の展開について学ぶ。 （オムニバス方式／全8回） ② 野村 陽子／3回 地域で生活する対象者の健康課題の特徴と保健活動の関連について学び、学校保健における課題と保健活動および産業保健における課題と保健活動について学ぶ。 ⑰ 秋山 直美／1回 高齢者保健福祉対策（介護予防等）における地域保健の課題を理解し、保健活動の展開について学ぶ。 ⑳ 松岡 真紀子／4回 妊産婦から乳幼児の保健活動である母子保健および成人保健（生活習慣病対策）における課題と保健活動について学び、精神保健や障害者対策、そして難病対策における課題と保健活動について学ぶ。さらに、感染症対策や災害対策における健康課題を理解し保健活動の展開を学ぶ。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 看護専門科目	在宅看護学概論	在宅療養者と家族の地域における生活を理解し、在宅看護の理念・目的そして訪問看護の制度について学修する。地域包括ケアシステムにおける訪問看護の位置づけを理解し、退院支援や外来看護等の医療機関との連携について学修する。そして看護と介護のチームケアなど在宅における関係機関や関係職種との連携について理解し、在宅ケアチームにおける看護職の役割を認識する。諸外国の訪問看護を学ぶことでわが国の訪問看護の課題を考える。	
	在宅看護学方法論	在宅療養者の対象特性を理解し、対象別に看護過程を展開する方法を学修する。目標は、高齢者、終末期、難病および医療ニーズの高い人に対する訪問看護技術を習得する。加えて、対象に応じた看護過程の展開について具体例を通して地域で生活する療養者を支える看護職の役割・機能を理解する。また、退院支援を学び、在宅療養者と家族の生活の質を高めるために社会資源を活用する方法を学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （17 秋山 直美／8回） 訪問看護の対象者と在宅における看護技術について学び、在宅療養を支援するための療養者支援と家族支援について理解する。訪問看護を計画的に実施するための在宅における情報収集とアセスメントについて学び、在宅における療養環境整備について学ぶ。そして退院支援における医療機関等との連携や調整について実践的に学ぶ。また、寝たきり高齢者等の長期臥床、回復期、認知症を有する療養者の訪問看護過程を学ぶ。 （29 藤原 弥生／7回） 訪問看護の対象別に看護過程の展開を学ぶ。具体的には、難病患者、ALS等の呼吸管理を必要とする療養者、褥瘡を有する者、小児、がん患者、終末期の療養者の訪問看護過程を学ぶ。	オムニバス方式
	在宅看護学演習	在宅療養者の居宅を訪問する技術を学び、療養者や家族の生活様式や価値観を尊重した態度を習得する。その上で、療養者の必要性に応じた日常生活援助の方法を学び、その基本的技術を習得する。また、医療的ケアの必要な療養者に対しては、病状の把握や医師の指示を確認した上で、医療機器の管理や家族が行うケアの手技を指導することを理解する。実習室（居宅）等を活用した演習を中心にを行い在宅看護方法の実際を学ぶ。	共同
	看護の統合と実践	災害ケア論	2011年3月11日、東日本大震災は岩手県沿岸全域で津波災害をもたらし、内陸部は被災地支援を展開するなど県民全体が災害を自分のこととして意識するような出来事となった。今現在も多くの方が震災の影響で悩み苦しんでいる。これまでも大きな災害が、そしてこれからも災害が頻繁に生じるであろう状況下において、被災を受けることは生活に心身にどのような影響を与えるのか、看護職者としてどのような災害支援ができるのか、その基礎を学ぶ。最後に自分たちで関心のある災害事例についてまとめ、何が明らかになったか、共有する場を持つ。 （オムニバス方式／全8回） ① 三浦 まゆみ／7回 災害の定義、災害サイクル、災害看護の歴史、災害からの教訓、災害サイクルから見た看護ケア（急性期災害現場、避難所、中・長期避難所、仮設住宅、地域のケア）について一連のプロセスを学ぶ。その学びの中で被災を受けることは生活に心身にどのような影響を受けるのか、理解する。 （51 眞瀬 智彦／1回） 災害医療について学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 看護専門科目 看護の統合と実践	国際看護学	諸外国の社会、経済、教育および文化的な相違の理解の基に、世界の健康問題と看護の現状・課題について学ぶ。また、途上国の人々の主な健康課題と貧困を基盤とする健康に影響を与える要因について学ぶ。併せて、先進国の医療・看護の現状と課題についても学び、看護の国際情勢についての理解を深める。 （オムニバス方式／全8回） （6 高橋 亮／4回） 国際看護学の概念、開発途上国における看護活動およびわが国の国際看護に関する動向を学ぶ。 （⑨ 小松 恵／4回） 異文化理解と看護の国際化、海外の医療機関における看護活動の実践を学ぶ。	オムニバス方式
	看護研究入門	エビデンスに基づいた看護ケアを学ぶ上で必要となる看護研究論文を読むために必須な文献講読の基礎的能力を身に付け、併せて研究のプロセスを理解することを目的に看護研究の基礎を学ぶ。また、具体的な看護研究論文を実際に読みこなすことで、研究目的とそれを明らかにする方法、さらに結果の解釈から考察を読み解き、看護研究の必要性と可能性について学びを深める。	
	医療安全論	日本の医療において、医療安全確保が重要な課題となった歴史、医療安全確保に必要な基本的な考え方、医療現場で発生しやすい事故やその防止対策について学ぶことによって、医療安全確保の重要性を認識する。医療現場で起こりやすい事故の発生を防止するための組織的な対応、現場で行うべき基本的な安全行動の実践、安全文化の醸成の重要性を学ぶことによって、臨地実習や卒業後の実践場面において、安全が確保された行動を実施できるようになる。また、事故発生時に現場で行うべきこと、事故が発生した組織や個人が負うべき法的責任や被害者および事故当事者への支援のあり方について学ぶ。	
	緩和ケア論	緩和ケアは、“がん”を始めとする生命を脅かす疾患に直面している患者および家族を全人的な存在として捉え、抱える苦痛に焦点を当て対応する取り組みであり、医療の根幹を為す概念である。現代医療における緩和ケアの理念を、その歴史から現在に至る発展過程を含め理解し、緩和ケア実践における看護師の果たす役割について探求する。全人的な患者理解と主要症状についての病態理解を基盤とした、苦痛に対する専門的な軽減方法を学び、人の尊厳を尊重した生活の維持について理解を深める。さらには、緩和ケアを必要とする患者・家族が安楽な状態を維持し、尊厳を持って生活できるよう、適切な支援を行うためのチーム医療における看護の役割について学ぶ。	
	看護政策論	看護制度と看護サービスの関連について学び、看護政策の基本的な考え方を学修する。そして、制度が創られてきた政策過程を学ぶことにより政策的思考を身に付ける。具体的には、これまでの看護学実習等を通して認識した看護サービスの課題を明確にし、その課題と関連する制度の理解を深め、そして制度を変革する過程で必要となる政治、行政および団体などの社会の力動関係を学修する。そして課題解決策について、社会的制約や妥協点を考え、実現可能な提言をまとめることにより、制度を変革するための基本的な考え方を身に付ける。	
	看護管理学	看護は、個人、家族および集団等様々な対象に提供されるサービスである。安全で質の高い看護サービスを継続的に提供するためには、看護管理（看護サービス管理）が不可欠である。本科目では、看護管理を行う上で必要な、看護サービスの特徴、サービス提供のための組織化、サービスの質評価と改善および組織変革理論等について学ぶ。また、リーダーに必要な能力について学ぶ事を通して、多職種が連携して行う医療サービスの協働者として、leadershipやfollowershipを発揮するための基本的な態度を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要					
(看護学部看護学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門科目群	看護の統合と実践	看護研究	<p>看護研究の意義および動向、研究における倫理的配慮など、看護専門職者として研究に取り組む上での基礎的知識を理解する。また、質的・量的研究の研究手法や文献検索および文献検討を実践的に学び、研究計画書を作成する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 高橋 亮/3回) 研究課題の明確化、研究論文の構成要素および看護研究における倫理的配慮の実際を学ぶ。</p> <p>(17 秋山 直美/5回) 質的研究および量的研究の方法と特徴、統計的検定法、看護研究の論文クリティーク、研究計画の概要ならびに研究デザインを学ぶ。</p> <p>(専任補充予定/1回) 看護に関連する科学的研究の方法と特徴を学ぶ。</p> <p>(1 嶋森 好子・① 三浦 まゆみ・4 末安 民生・② 野村 陽子・6 高橋 亮・7 蛸崎 奈津子・8 遠藤 龍人・③ 秋山 智弥・10 相馬 一二三・12 塚本 恭正・④ 三浦 幸枝・⑤ 遠藤 太・⑥ 柏木 ゆきえ・16 三宅 美智・17 秋山 直美・18 大澤 扶佐子・19 最上 玲子・20 遊田 由希子・21 西里 真澄・専任補充予定・⑧ 横田 真理子・⑨ 小松 恵/6回) (共同) 研究計画書の作成を学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同（一部）	
		基礎看護学実習Ⅰ	病院や介護現場ではどのような職種の方々が働き、それぞれチームとしてどのように協力し合っているのかを体験的に学ぶ。医療・介護施設で生活している患者・入所者の人々とその人々をめぐる環境への理解を深めるとともに、看護を学ぶ動機となるよう、見学実習を通して、看護の実際を体験的に学ぶ。	共同	
		基礎看護学実習Ⅱ	受け持ち患者のニーズを理解し、日常生活援助等の看護技術を実践するとともに基本的な看護過程の展開について学ぶ。また、高度な治療を受けている患者に対し看護職がプロフェッショナルとしてどのような実践を行っているか、専門職としてのクリティカルシンキング、コミュニケーション等について学ぶ。	共同	
		成人看護学慢性期・回復期実習	既習の専門科目で学んだ知識・技術を基に自らが学修し研鑽する態度および患者を取り巻く社会の動向を踏まえ感染予防や医療事故防止といった安全なケア環境を保持する看護専門職としての基本的態度の育成を目指す。成人期にある看護を必要とする人およびその家族と援助関係を形成すると共に、健康問題や生活環境をアセスメントし、保健、医療および福祉と連携をとりながら看護過程を展開することで問題解決のプロセスについて学修する。患者の人生や価値観を尊重し、健康生活のあり方や意思決定を支援するとともに、他職種と協働しながら患者や患者を取り巻く人々への援助を実践する。	共同	
		成人看護学急性期実習	成人看護学概論や成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学演習Ⅰ・Ⅱおよび既習の科目で学んだ知識・技術を基に、臨床場面での実習を行う。成人期にある患者およびその家族等を急性期の臨床の現場で受け持ち、看護過程を通して対象理解を深める。そして、臨床の看護師の援助を受けながらエビデンスに基づく看護ケアを実践する。その際、臨床場面を通して、看護師の優先順位や時間管理を考えながら臨床判断や問題解決を行う場面を見て、学びを深める。	共同	
	老年看護学実習	老年期にある対象および家族を総合的にとらえ看護を展開する。看護過程の展開では、アセスメント能力・問題解決能力を身に付け、個々に応じた看護を実践するとともにセルフケア能力の向上を図る看護を習得する。さらに、生活の場が移行し療養が必要になった高齢者を包括的に理解し、対象および家族に必要な看護を実践する能力を習得する。医療および福祉の連携の必要性を理解し、その中での看護師の役割およびチームアプローチの必要性を学び、自立の援助や患者のQOLの向上を図る知識・技術を身に付ける。	共同		
	看護専門科目	臨地実習	成人看護学慢性期・回復期実習	既習の専門科目で学んだ知識・技術を基に自らが学修し研鑽する態度および患者を取り巻く社会の動向を踏まえ感染予防や医療事故防止といった安全なケア環境を保持する看護専門職としての基本的態度の育成を目指す。成人期にある看護を必要とする人およびその家族と援助関係を形成すると共に、健康問題や生活環境をアセスメントし、保健、医療および福祉と連携をとりながら看護過程を展開することで問題解決のプロセスについて学修する。患者の人生や価値観を尊重し、健康生活のあり方や意思決定を支援するとともに、他職種と協働しながら患者や患者を取り巻く人々への援助を実践する。	共同
			成人看護学急性期実習	成人看護学概論や成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学演習Ⅰ・Ⅱおよび既習の科目で学んだ知識・技術を基に、臨床場面での実習を行う。成人期にある患者およびその家族等を急性期の臨床の現場で受け持ち、看護過程を通して対象理解を深める。そして、臨床の看護師の援助を受けながらエビデンスに基づく看護ケアを実践する。その際、臨床場面を通して、看護師の優先順位や時間管理を考えながら臨床判断や問題解決を行う場面を見て、学びを深める。	共同
			老年看護学実習	老年期にある対象および家族を総合的にとらえ看護を展開する。看護過程の展開では、アセスメント能力・問題解決能力を身に付け、個々に応じた看護を実践するとともにセルフケア能力の向上を図る看護を習得する。さらに、生活の場が移行し療養が必要になった高齢者を包括的に理解し、対象および家族に必要な看護を実践する能力を習得する。医療および福祉の連携の必要性を理解し、その中での看護師の役割およびチームアプローチの必要性を学び、自立の援助や患者のQOLの向上を図る知識・技術を身に付ける。	共同
			基礎看護学実習Ⅰ	病院や介護現場ではどのような職種の方々が働き、それぞれチームとしてどのように協力し合っているのかを体験的に学ぶ。医療・介護施設で生活している患者・入所者の人々とその人々をめぐる環境への理解を深めるとともに、看護を学ぶ動機となるよう、見学実習を通して、看護の実際を体験的に学ぶ。	共同
基礎看護学実習Ⅱ			受け持ち患者のニーズを理解し、日常生活援助等の看護技術を実践するとともに基本的な看護過程の展開について学ぶ。また、高度な治療を受けている患者に対し看護職がプロフェッショナルとしてどのような実践を行っているか、専門職としてのクリティカルシンキング、コミュニケーション等について学ぶ。	共同	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目群	看護専門科目 臨地実習	小児看護学実習	健康障害をもつ子どもとその家族に応じた看護実践に必要な知識や技術を学ぶ。小児病棟での実習を通して、健康障害や入院が小児とその家族に及ぼす影響について理解し、健康障害をもつ小児とその家族のアセスメント（分析・解釈）を行い、立案した看護計画に基づき看護を実践、評価する。なお、小児病棟実習では1名の小児患者を受け持ち、看護過程を展開することを通して、小児看護の役割についても考察する。	共同
		母性看護学実習	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期にある母子とその家族を対象に、その身体的・心理社会的特性をとらえながら、各期における健康を保持・増進するための具体的な看護のあり方について体験的に学修する。また、各学生が立案した看護過程を共有し、広く母性看護の役割について考察する。具体的には、受け持ち事例に対する看護過程の展開を通し、基本的なアセスメントの視点を習得する。また、立案した看護計画を実施・評価しながら、必要な看護援助について実践的に学ぶ。そしてカンファレンスを通じ、各自の学びを共有する。	共同
		精神看護学実習	精神疾患患者にかかわり、セルフケアの視点でその人の体験、病態や症状、生活上の問題等を統合して理解するとともに、対人関係のプロセスを通して看護援助を行う。また精神科病棟、精神科デイ・ケアや地域で行われているさまざまな治療的なアプローチを学び、多職種の役割や精神疾患患者が利用できる社会資源について知る。さらにセルフケア能力を高め、自立に焦点を当てた具体的な看護援助方法を考え、精神科における看護の役割を理解する。	共同
		在宅看護学実習	訪問看護ステーション、地域包括支援センターの業務に参加し、訪問看護や包括支援センター業務の実際を体験し、在宅療養者に対する看護の機能、役割を理解する。具体的には、訪問看護ステーションの事例に対応する看護職に同行し、居宅における看護を学修するとともに、地域で療養者を支援するための医療機関、薬局、福祉サービスの実際の活動を見学し、訪問看護の役割を学ぶ。そして、地域包括ケアシステムをマネジメントしている地域包括支援センターの役割を理解する。	共同
		統合看護実習	既習の知識・技術を統合し、患者個々の様々な状態を的確に判断し、状況に応じて優先順位を考慮した看護を実践できる能力を養う。また、健康の保持・増進、治療、回復において、様々な役割・機能を担っている医療機関・施設での実践を通して、チーム医療を行う上での看護の独自の役割を理解する。さらに、継続して健康管理が必要な人々の保健・医療・福祉に対するニーズ、健康観や健康問題への対処方法を把握し、社会資源の活用方法や地域医療連携のあり方を学ぶ。	共同
	発展科目	医療情報論	情報通信技術（ICT）の進歩により、医療におけるICTの重要性も増している。特に、電子カルテは医療を支える最も重要な情報システムの一つであり、医療機器との連携による複合的な医療情報の活用や、地域医療や遠隔医療での情報共有など、電子情報の特長を活かした医療が展開されている。今後、医療分野での更なる情報活用が求められる中、看護師には情報適応力、情報活用力の向上が期待される。本科目では、情報を主に情報学および情報科学的視点から捉え、医療での情報活用を探求する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目 群	展 展 科 目	<p>近年、種々の先端医療が次々と臨床応用され、医療の質向上に寄与する一方、より高度で多様な看護が求められるようになった。本科目では、特に看護師が関与する機会が多い放射線治療、放射線・超音波画像検査の概要について理解するとともに、放射線生物学の基礎や放射線防護の実際を学ぶ。また、最新の画像診断、遺伝子医療、再生医療、内視鏡外科手術・ロボット支援手術の現状について理解を深める。上記を通して、これからの医療における先端医療の意義や看護上の注意点を学び、看護の実践に役立つ基本的知識を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(33 佐々木 章／1回) 【内視鏡外科手術・ロボット支援手術】低侵襲手術として急速に普及している内視鏡外科手術と最先端手術であるロボット支援手術についての知識を学び、これらの手術を受ける患者に対して学術的な根拠に基づく看護が実践できる能力を身に付ける。</p> <p>(40 福島 明宗／1回) 【人類遺伝学の基礎】科学技術の進歩にともない、様々な疾患や検査で遺伝子解析技術が用いられるようになってきている。本科目では、臨床に役立つ知識を身に付けるための第一歩としてDNA、染色体、遺伝子および遺伝形式等の人類遺伝の基本的知識について学ぶ。</p> <p>(46 有賀 久哲／2回) 【放射線生物学の基礎及び放射線治療の実際】放射線治療は悪性腫瘍に効果的であり、集学的治療の重要な柱となっている。ここでは、放射線の人体への影響と放射線防護に関する基礎を学ぶとともに、放射線治療の種類と実際について看護上の注意点を含め理解する。</p> <p>(48 佐々木 真理／1回) 【先端医療画像診断の最前線】超高磁場MRI、陽電子断層法（PET）などを用いた最先端の画像診断法や画像解析法の現状について理解するとともに、種々の脳神経・精神疾患の克服に向けた画像診断の取り組みの最前線について学ぶ。</p> <p>(53 原田 英光／1回) 【再生医療の現状と展望】再生医療の発展に結びついた科学的発見を学ぶことによって、再生医療の基本的概念を理解し正しく認識し、将来における再生医療の展望について理解を深める。また、再生医療に関わる社会的背景や法律等についても学ぶ。</p> <p>(73 吉岡 邦浩／1回) 【放射線画像診断の基礎】放射線画像診断学は、X線単純写真やCTのほかに電離放射線を使用しないMRIや超音波診断も含んでいる。ここでは、各画像診断法の長所・短所を理解した上で、臨床現場での画像診断法の利用の実際について学ぶ。</p> <p>(89 田中 良一／1回) 【超音波画像診断の基礎と応用】超音波検査のしくみと特徴を理解し、画像診断法としての応用について学ぶとともに実際の画像を理解する。また、血液の流れの方向や速さなど生体情報を計測する方法についても学ぶ。</p>	オムニバス方式	
		災害医療論	<p>災害の定義、種類とその特徴、災害急性期から慢性期における災害医療の課題・問題点、傷病者・被災者への支援制度・システムを学ぶ。その中で具体的に看護の役割を理解する。災害対応するための医療知識とともに、災害医療チームの一員として活動できる基本的な知識を修得し、災害時における多機関連携・調整の重要性を学ぶ。</p>	
		家族ケア論	<p>臨地実習を終え、様々な看護体験をしてきた中で、患者のみならず家族に焦点を当てる。家族に関する様々な理論を踏まえ、家族集団のダイナミクスを理解し、家族の発達段階・臨床の場や在宅、地域で出会うさまざまな家族への支援方法について学び、これまで出会った患者・療養者の家族への支援について振り返り考えを深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	発展科目	看護教育論	専門職教育としての看護教育を理解するために、看護教育の歴史の変遷を踏まえて、看護教育制度の現状と問題点を考えていく。准看護師問題、看護学教育の一元化および特定能力を有する看護師の問題等看護学教育を取り巻く様々な問題を検討し、今後どのような看護学教育が必要とされるかを考えていく。さらには、自身の看護職としての継続したキャリア開発と継続教育の関連性を考える。
		メンタルヘルスケア論	精神の健康を保つために、地域生活や学校、企業などにおいてどのような関係性のあり方が望ましいのかをメンタルヘルスケアの視点から理解する。特に発達と病理、精神と身体および集団と社会のダイナミクス等精神の健康を脅かす事象に対して対処できる方法について学ぶ。対人援助職の適切な感情の創出と、不適切な感情について学ぶ。特に「感情規則」や「感情管理」のあり方と問題点を明らかにし、対人援助職としての基本的な能力を身に付ける。
公衆衛生看護学関連科目群		保健医療福祉行政論	地域看護活動の基盤となっている保健医療福祉行政の理念と仕組みを学び、保健医療福祉制度の歴史の変遷を理解することで、保健師活動と制度の関連を認識する。医療提供体制および医療保険制度・介護保険制度について学び、個別サービスとしての制度を理解する。また、地方自治体の保健医療計画、福祉計画、介護保険計画を学ぶことで計画行政を理解し、予算の仕組みと事業展開について学修し、行政機関における保健師の役割・機能を認識する。
		公衆衛生看護方法論	<p>地域における看護活動の具体的な方法として、個人・家族、集団、地区組織を単位とした住民の健康課題の支援方法を学ぶ。保健指導の基本となる乳幼児の発達アセスメント、家族支援の基本、保健行動理論を用いた行動変容につながる保健指導および介護予防の基本的考え方に基づく事業の展開など幅広く学修する。そして、母子保健における家庭訪問、健康診査、生活習慣病対策における健康相談、健康教育、そして介護予防におけるグループ支援、住民主体の活動支援の方法を実践的に学修する。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>（② 野村 陽子／2回） 公衆衛生看護活動の対象である個人・家族、集団、組織に応じた支援方法の基本を学び、対象の特性と保健指導方法の関連について理解する。また、介護予防ニーズを把握するためのアセスメントについて学ぶ。</p> <p>（19 最上 玲子／1回） 母子保健の基本である乳幼児の発達アセスメントについて学ぶ。</p> <p>（44 櫻井 滋／1回） 生活習慣病の保健指導（飲酒・喫煙・睡眠）について学ぶ。</p> <p>（49 石垣 泰／2回） 生活習慣病の発症機序、保健指導技術および保健指導（運動・食事）について学ぶ。</p> <p>（② 野村 陽子・17 秋山 直美・18 大澤 扶佐子・29 藤原 弥生・30 松岡 真紀子／24回）（共同） 公衆衛生活動について実践的に学ぶ。具体的には、乳幼児健康診査の実際、乳幼児健康診査における発達の観察とアセスメント・問診を学び、乳幼児の家庭訪問の目的・計画・プロセスと実際そして訪問計画の評価について学ぶ。また、保健行動理論とコーチング、行動変容を促す保健指導方法について理解する。健康教育について、その目的・方法・企画書作成・指導案作成および実施を演習で行い、評価について学ぶ。介護予防事業については、目的・計画・プロセスを学び、地域ニーズの把握と介護予防企画書の作成、指導案を作成し、介護予防事業におけるグループ支援、住民主体の介護予防の展開と評価を学ぶ。</p>

オムニバス方式
・共同（一部）
・集中

講義12時間
演習48時間

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
公衆衛生看護学関連科目群	公衆衛生看護展開論	<p>地域看護学展開論で学んだ地域における多様な保健活動について、発達段階別、健康課題別の具体的な保健活動の課題と施策、そして活動を展開する方法について実践的に学ぶ。また、学校保健、産業保健については、その保健活動の特性を理解し、学校、産業における保健活動の展開方法について学修するとともに、看護職の役割について理解する。そして保健活動を継続する上で重要な住民組織活動等の形成過程を理解し、その方法を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(② 野村 陽子/6回) 公衆衛生看護活動の展開方法について基本的考え方を学び、保健活動がPDCAサイクルで展開することを理解する。また、学校保健における保健活動について、養護教諭の役割、学校保健における保健教育、保健室の運営について学ぶ。</p> <p>(42 坂田 清美/4回) 産業保健における健康診査・健康相談・メンタルヘルス活動の実際、産業保健における健康教育・疾病管理・環境管理について学ぶ。</p> <p>(17 秋山 直美・18 大澤 扶佐子・29 藤原 弥生・30 松岡 真紀子/20回) (共同) 対象別の保健活動の展開を実践的に学ぶ。具体的には、母子保健、成人保健(生活習慣病)および高齢者保健(介護予防)の健康課題を理解し施策と実際を学ぶ。感染症対策、精神保健、障害者対策、難病対策、健康増進および歯科保健・口腔衛生の課題を理解し施策と実際を学ぶ。住民組織・地区組織活動等の育成における課題を理解し、発展過程の実際を学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式 ・共同(一部) ・集中</p> <p>講義20時間 演習40時間</p>
	公衆衛生看護管理論Ⅰ	<p>地域の健康課題を解決するための地区診断について学修する。先進事例を学び、地区診断のステップをアセスメント、情報収集、地区踏査、そして得られた情報の分析を行う。その後、地域の健康課題を解決するための方策を検討し、実施可能な事業を考える。考えられた事業の提案をするため、地区診断の経過をわかりやすくまとめ、発表を行う。また、地区診断の各段階(計画立案、実施、事業化、提案)について評価を行う。</p>	共同
	公衆衛生看護管理論Ⅱ	<p>地域保健計画の策定と施策化、予算化について、地方自治体の実践例を通して学ぶとともに、地域保健活動の基盤となる地域包括ケアシステムの形成過程と、システム運用における保健師の役割を理解する。その上で、災害発生時や感染症等の健康危機管理時の対応について学修し、保健師としての具体的な活動を認識し、取るべき行動を考えることができる。そして保健師活動の基礎となる活動体制の在り方を理解し、保健師の資質向上について学ぶ。</p>	
	公衆衛生看護学実習	<p>保健所および市町村等の業務に参加・見学し、地域住民に対する保健活動を学ぶ。地域特性や住民のニーズに対応した保健師活動の展開、行政における保健師の役割や機能について学修する。具体的には地域の健康課題を把握するための情報収集を行い、地域の健康課題をとらえる方法を学修し、地域保健活動としての家庭訪問、健康相談、健康教育およびグループ支援などの実際を体験または見学することで、地域保健活動の機能を理解する。地域保健事業の法的根拠と事業の実施そして予算の確保について学び、保健所等の組織としての機能について学修する。</p>	共同
	日本国憲法	<p>日本国憲法の全体像は、基本的人権と統治機構の2つに大別される。本科目では、日本国憲法の基礎的知識、とりわけ基本的人権の内容と意義、統治機構の基本原理と司法権・違憲審査制の理解を目的とする。基本概念・判例などの基礎的知識の獲得を大前提に、それらの知識を活用して、社会における多様な問題を、日常生活との関わりから捉え、憲法に関わる問題を独力で解き、自らの言葉で発言できる力を身に付ける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
助産看護学関連科目群	助産学概論	助産学の基本理念を踏まえ、これまでの国内外の歴史の変遷や現代における助産師の役割を学ぶ。加えて、助産学の主な対象となる女性への支援に焦点をあて、おこなわれている社会的背景を考察しながら、現代における助産師の役割を理解する。具体的には、助産師が行うケアの理念、お産の歴史と文化、助産師教育の変遷、日本・世界の母子保健、助産実践の倫理、特別に支援を要する健康問題（不妊、ドメスティックバイオレンス等）および家族計画について学修する。	
	助産診断技術学Ⅰ	<p>周産期のなかでも妊娠期に焦点をあて、妊娠各期（妊娠初期・中期・末期）における健康状態をアセスメントする方法について学ぶ。それを踏まえ、妊娠経過に応じた具体的な助産診断とそれに基づく助産ケアについて、事例展開をもとにその基本的内容を学修する。具体的には、妊娠経過（妊娠初期・中期・末期）に対応したアセスメントとケア、日常生活におけるケア、親準備へのケアおよび助産過程（事例展開）について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（7 蛸崎 奈津子／6回）</p> <p>助産師が行う妊娠期のケアの基本理念をもとに、妊娠経過に対応したアセスメントの視点や助産過程の展開、助産診断に基づく助産ケアの基本を学修する。それを通じて、妊娠期における助産師の役割を学ぶ。</p> <p>（21 西里 真澄／2回）</p> <p>妊娠経過中の日常生活における助産ケアのあり方や妊婦・家族の親準備・出産準備への助産ケアの具体的内容を学修する。</p>	オムニバス方式 ・集中
	助産診断技術学Ⅱ	<p>妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に起こりうる異常のメカニズムを理解し、予防や早期発見に向けた基本的なスクリーニング方法について学ぶ。また、心理社会的にハイリスクな妊産婦のリスク要因についても学修する。それらの学びを踏まえ、具体的な助産ケアのあり方を理解する。具体的には、ハイリスク妊娠と助産ケアの基本、妊娠期の異常、分娩期の異常、新生児期の異常、産褥期の異常および心理社会的ハイリスク対象者への具体的な助産ケアについて学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（7 蛸崎 奈津子／13回）</p> <p>周産期における異常の早期発見・予防にむけた助産実践のため、ハイリスク妊娠や妊娠期から産褥期、新生児期における異常に関するスクリーニング方法と助産師の役割について学修する。</p> <p>（20 遊田 由希子／2回）</p> <p>現代社会における心理社会的ハイリスク妊産婦とその家族への助産ケアの実際について学ぶ。</p>	オムニバス方式 ・集中

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
助産看護学関連科目群	助産診断技術学Ⅲ	<p>妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の軽度の異常やマイナートラブルへの助産ケアおよび正常経過を促す助産ケアについて、具体的な状況や事例を通じて、その基本を学ぶ。具体的には、妊娠期のマイナートラブル（便秘、腰痛等）への助産ケア、分娩期の正常経過を促す助産ケア（体位変換、温罨法、産痛緩和等）、産褥期異常時（子宮復古不全、創部痛等）の助産ケアおよび新生児期の正常経過を促す助産ケア（環境調整、育児指導等）について学修する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（7 蛸崎 奈津子／1回） 周産期におけるマイナートラブルを抱えた対象への助産ケアの基本について学修する。</p> <p>（20 遊田 由希子／3回） 正常な分娩経過を促す助産ケアの実際と異常発生時の対処方法について学修する。また、産褥期に起こりうる異常時の助産ケアの実際について学ぶ。</p> <p>（21 西里 真澄／4回） 妊娠期におけるマイナートラブルや起こりうる異常時への助産ケアの実際について学修する。また、新生児の外界適応や発育を促す助産ケアの実際について学ぶ。</p>	オムニバス方式 ・集中
	助産診断技術学Ⅳ	<p>分娩期・産褥期ならびに新生児期の身体的・心理社会的特性を踏まえ、各期の経過に応じたアセスメントと助産ケアについて理解する。また各期に必要な助産ケアの基本を演習を通して習得する。具体的には、分娩経過（分娩第1期～第4期）に対応したアセスメントと助産ケア、事例や状況設定に基づく助産過程の展開、分娩期一連の分娩介助技術、出生直後の新生児のアセスメントと助産ケアおよび産褥期のアセスメントと助産ケアについて学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>（7 蛸崎 奈津子／13回） 助産師が行う分娩期のケアの基本を踏まえ、分娩経過の診断に必要な知識を修得する。それを基に分娩経過に対応したアセスメントの視点や助産ケアの基本について学ぶ。また産褥期・新生児期の心身の特性について学び助産ケアの役割について学修する。</p> <p>（7 蛸崎 奈津子・20 遊田 由希子・21 西里 真澄／4回）（共同） 分娩が開始した事例に対する助産過程の実際を学修する。特にアセスメントに必要な情報把握とその読み解き方の実践を行い、分娩開始から分娩の全過程におけるアセスメントの実際を体験的に学ぶ。</p> <p>（7 蛸崎 奈津子・20 遊田 由希子・21 西里 真澄・31 高橋 淳美／13回）（共同） 分娩期・産褥期・新生児期に必要な助産ケア技術を習得する。具体的には分娩第1期の観察技術と助産ケア、さまざまな分娩体位と介助技術および出生直後の新生児ケアについて学ぶ。また産褥期および新生児に対する助産ケア技術についても学修する。</p>	オムニバス方式 ・共同（一部） 講義26時間 演習34時間

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
助産看護学関連科目群	助産診断技術学V	<p>妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に必要な診断法や検査法、その際に必要な助産ケアの実際について、その基本を理解する。具体的には、妊娠期に行われる超音波断層法診断の実際、分娩損傷と創部縫合術の実際、新生児蘇生法、分娩監視装置の判読と異常時の対応、腹式帝王切開術における術前から術後を通しての一連の助産ケア、分娩誘発・促進時の助産ケア、保育器に収容された新生児への助産ケアおよび出生前診断と助産ケアについて学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（7 蛸崎 奈津子／7回） 周産期に実施される検査や処置時に必要な助産ケアについて学修する。具体的には超音波断層法診断時の助産ケア、分娩損傷と縫合術時の助産ケア、出生前診断と助産ケアについて学修する。さらには、その際の助産師の役割についても学ぶ。</p> <p>（20 遊田 由希子／6回） 妊娠期や分娩期に実施される分娩監視装置（胎児心拍モニター）の装着方法やその判読、腹式帝王切開術の助産ケア、誘発・促進分娩を行う際の助産ケアの実際について学修する。さらには、保育器収容や光線療法を受ける児、母子分離をした対象への助産ケアについても学ぶ。</p> <p>（21 西里 真澄／2回） 新生児蘇生法について学修する。</p>	オムニバス方式
	地域母子保健	<p>地域母子保健に関する基本理念を踏まえ、地域社会の中で助産師が行う活動の実際について、その展開方法を学ぶ。また、助産師が行う地域母子保健活動のうち、健康教育に焦点をあて、その具体的な方法について学修する。さらにそれらを通して、地域母子保健における助産師の役割を考察する。具体的には、地域母子保健、関連する母子保健行政（法律、統計、関連機関等）および助産師が行う地域母子保健の実際（健康教育・家庭訪問等）について学修する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（7 蛸崎 奈津子／2回） 地域母子保健の基本理念を踏まえ、関連する母子保健行政や地域母子保健活動における助産師の役割について学修する。</p> <p>（20 遊田 由希子／3回） 助産師が行う健康教育の実際について学修する。具体的には指導案の立案とそれに基づく健康教育の実施を学ぶ。</p> <p>（21 西里 真澄／3回） 助産師が行う家庭訪問・乳幼児健康診査、防災教育を含めた災害時の母子支援など地域母子保健の実際について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	助産管理学	<p>助産業務における管理の基本理念を踏まえ、妊産婦と家族を中心とした助産ケアが提供されるための管理のあり方を学ぶ。また、助産所、病院、診療所の各現場における管理の実際についても学び、それぞれの特徴や課題を理解する。さらに周産期医療において起こりうる医療事故を概観し、リスクマネジメントのあり方についても学修する。具体的には、助産業務と管理、助産所における管理、病院における管理、診療所における管理、医療事故とリスクマネジメントおよび管理の実際に関する事例について学ぶ。</p>	
	助産学実習 I	<p>妊娠期、育児期にある対象者への病院等以外での助産ケアについて、その実際を体験的に学修する。また、開業助産師の助産活動の実際を通じて、助産師の専門性発揮に向けたあり方や関連機関との連携の持ち方について理解する。具体的には、各自治体の保健センター等で実施されている地域母子保健の実際（家庭訪問、母子健康手帳交付、両親学級等）、職能団体が実施する地域母子保健活動および助産所での助産ケアの実際について学修する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関助 連産 科看 目護 群学	助産学実習Ⅱ	妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にある対象者が有する生理的能力を十分に引き出す助産ケアを提供できるよう、その身体的および心理社会的特性を踏まえた助産過程の展開を通じ、基本的な助産診断・技術力を習得する。具体的には、受持ち事例に対する分娩介助を含む分娩期（分娩第1期～第4期）の助産過程の展開と助産ケアの実施および産褥期・新生児期の助産過程の展開と助産ケアの実施を行う。その他、妊娠期における助産ケアの実際についても体験的に学修する。	共同
自由 科目	看護研究実践演習	看護に関する自己の研究課題に対して、「看護研究」で作成した研究計画書に基づき、データの収集および分析を通して、調査結果の解釈から考察を行い、最終的には研究論文としてまとめる。適切な研究の手順を実際に経験することで、研究プロセスの一連を学び、基礎的な研究遂行能力を身に付ける。	共同